右廣告す
營口兵站司令部
山下永幸

小說

馬

德田秋聲

むかし奥州の或村に敏作と云ふ百姓が居た。其村は富有な村で、誰も彼も資產家であつたけれど、敏作一人は不幸にも貧しかつた。其で始終馬が一頭あつたらば、何樣に手助になるだらふにと、何かの癖に女房と愚痴をこぼしてゐた。が、敏作は自体目から鼻へ脫ける悧巧者であつたので、或日女房と相談して、一計を案じだした。

「なあ嬶、指物屋の斧さんに賴んで、小い馬を拵へて貰ふんだ。其馬さへをりや、己は其を資本に乾度安樂な身の上になつてみせる。」

指物屋は直に小馬を拵へてくれた。其で其小馬は、草でも食つてゐる形で、首を垂れてゐた。扨或天氣の好い日、村中の馬が牧場へ放された。中に一頭小馬が居たが、愚な牧者共は其を眞の馬と信じて少しも疑はなかつた。晚方になると、彼等は多くの馬を引連れて、牧場から歸つて來たが、途中で敏作に出逢つた。

「己の馬はどうしたゞ?」と敏作が佛頂面で尋ねる。

「お前の馬居なかつたゞよ。」

「馬鹿云へ。あの小馬を放抛つておかれて堪るものか。此頃買つたばかりだによ。」

其處で同道して引返して見ると、小馬は誰が持つて行つたか、牧場には見えない。

「馬ア何處かへ飛んでいつたゞ。」と牧者は言つたが、敏作は承知せず、到頭意地となつて、長い揃着の末村民から馬一頭賠償なすと爲つた。」

敏作夫婦は、長いあいだ渴望してゐた眞實の馬をば、漸く手に入れは入れたが、自分の食物さへ乏しい生計であるので、無論生きた馬の飼へやう筈がない。

「まゝよ、何うせ馬一頭あつたつて、高が知れた身代だ。此を資本に己の腕で一つお釜を起してくれるだ。」

敏作はそこで其馬を屠殺して了つた。さて馬の肉は人に賣つていくらかの金にも代へ、自分も食つたが、敏作の望むのはそんな處ではない。敏作は或日件の馬の皮を持つて、相場の高い隣國へ賣りに出かけた。其を賣つた金で、泡よくば又一匹馬を買はうと云ふ考で。

途中或淋しい森のなかをあるいてをると、忽ち目に着いたものがある。其は翅を傷めた一羽の鴉で、叢のなかに、じたばた羽搏をして啼いてゐる。

油斷のない敏作は、何う思つたか、いきなり其鴉を捉へて、馬の皮に包んで、而して威勢よく路を步いた。

が、折あしく天氣が變つて來て、空が急に曇つて來た。と思ふと、道の六七町も急ぐまに、次第に雲脚が速くなつて、ぽつり〳〵雨さへ降り出して來た。其處は村と村との境で丁度山路になつてゐる。森は深し、人里は遠し、弱切つてゐるところに、麓まで來ると、其處の森陰に二三軒貧しい家があつた。敏作は濡鼠のやうになつて、這ふ〳〵の体で、辛うじて其一軒へ飛び込んだ。案內を乞ふと、圍爐裏の緣に坐つて、何かぐつ〳〵物を煮て居る三十ばかりの色の白い女が、榾の煙の隙から此方を見て、怪訝なかほをする。が、譯を話して、雨泊をしたい旨を賴入れると、一も二もなく氣輕に承知して、「それはお困んなさるてせう。まあ火の側へお寄んなさい。而して着物をお乾しなさるがよござんすよ。」

敏作は幾度も禮を述べて、圍爐裏の傍へ寄つた。內儀さんは臺所へ立つた。もうそろ〳〵晚方であるから、大方何か飯の支度であらうと思つてゐると、やがて麥飯に鹽肴を一ト片、其に圍爐裏に煮てあツた大根をつけて、夕餉の膳を侑めた。敏作は幾度も禮を言つて、むしや〳〵食ふてゐると、やがて一人の法師がぬつと入つて來た。

此の法師の樣子を見ると、如何にも內儀さんと懇意な間と見えて、「お前さん。」「お作!」と言ふ風に、全然夫婦のやうであつた。お作と云ふは、無論內儀さんの名なので。

少時すると、內儀さんは坊さんを連れて奥へ入つたが、聞けば主は用事があつて町へ出かけたので、翌日でなければ歸つて來ないと云ふので、二人はやがて差向で酒を飲はじめた。悧巧な敏作は、眠くなつた風をして、圍爐裏の傍に、ごろりと横になつてゐたが、耳を引立てゝ聞いてゐると、奥の二人は頻りに何か喃々しやべるやら笑ふやら、大陽氣で宴をやつてゐる。根が敏作も嫌いな酒でないので、芬々匂ふ酒の香が鼻について、咽喉がぐび〳〵言つて堪らぬ。加之二人の仕草が餘り癪に觸るので、私と唐紙の隙間から覗いてみると、膳の上には鰤の照燒、卵などがあつて、銚子は早や二三本仆れて居るが、二人はまだ酒を休めさうにもない。するうち、段々夜も更けて來た。敏作も憶か出て、圍爐裏の傍でうと〳〵眠りかけて來た、と思ふと、遽にどん〳〵表を叩く者がある。

「お作、開けてくれろ。おい、速く開けろ。」と言ふのは、確に主の聲だ。

敏作は眠つた振をして、耳を澄してゐると、奥では聲を聞つけて大狼狽、お作は「ハイ〳〵今開けますよ。」と云ひながら、あたふた唐紙を開けて出て來たが、又引返して、

「お前さん、本當に何したら可いんだらうね。速く其お膳を隱しておくれよ。」

法師は大まごつきで、周章て膳を押入へ隱すと、內儀さんは膳の外にあつた、銚子を鼠不入のなかへ仕舞込むやら、酔ばらつてゐるだけ、騷が劇しかつた。敏作は目を細目に開けながら可笑さをこらへて見てゐたが、肚裡で「間脫め、坊主の始末を奈何するつもりだ。」

と、內儀さんと坊主は潜々何か話してゐたが、軈て坊主は臺所の揚板の下へ、そつと身を隱してしまつた、そこで內儀さんは、何喰はぬ顔で

「やれ〳〵せわしない。今晩[illegible]ね。」

主はでつぷりした大男で、ずつと入つて來ると

「此の寒いに、外に立往生をさせられておたまりがあるものか。」と弗々言ひながら、圍爐裏の傍へ胡坐を掻いて、ぶす〳〵燻つてゐる榾の火を掻立てた。

其火影に、主は敏作の姿をまもつて、「こりや一体奈何したのだ。」

「此人かい。此人はね……。」と內儀さんは氣取られぬやうと、可成赤い顔を、煙に背向けながら、雨泊の始末を語つた。

「然うか。それはまあ可かつた。」と主も何氣ない体で、「が、己も何だか寒く〳〵つて爲樣がないから、酒を一本つけてもらひていものだ。」

「然うかい。だけど、お肴が何にもないんだがね。」

ステツセルの乃木將軍に贈れる馬

「肴がない。いや、何でも可いや。熱くして一杯、暖まつたら直に寢ると云ふとに爲やう。」

內儀さんは、そこでとぼけた顔で、新しく銚子をつける。主は其れをちび〳〵やりながら、旅人の傍にある馬の皮に目を着けた。「こりや一体何だ。」

「さあ、何だか、私にや何とも言はなかつたよ。」

聞いてゐた敏作は、自体寢てゐるのでないから、這麼話を聞いて、熟と寢た振をしてはゐられね。

むづ〳〵起きあがつて、「やあ、此は……御主人ですかい。」

「目が覺めたかい。いやお氣毒じや。」と主は猪口を一つ明けて、「如何じや、寒いから一つ寢ざめに……。」

「其奴は有難い。」と敏作は嬉しさうに受ける。

「時に、お前さん妙なものを持つてゐるが、其れは何の皮かね。」

「此かね。」と敏作は笑つて、「これは其の、馬の皮でござんすがね、此のなかに居るのが、豪らい功者な占者で……。」

「占者だ。」

「然うだよ。己の守本尊で、已の伺ひを立てる事なら、何でも解らねいとはねえ。其が又不思議に中るだからね。」

「一體本尊は何かね。」

「本尊かね。それ言ふと罰ちが中るだから。」

「ちや一つ己の身の上を見て貰はう。」

「可いだ、だが、三つより外、餘計は一度に伺ひは立てられねえ。然うでねえと本尊さま怒つて、仇しるだから。」

「ちやまあ、三つでも可いや。」

敏作は皮の上から恭しく鴉の躰を撫てゝ、やがて首の處を押へると「カア、カアー、」と二聲啼いた。

「これが其の、信心してる己にはちやんと判るだが、先最初、お前さんの酒の肴が、澤山押入に仕舞込んであるから出して食へと仰しやる。」

「ひゃ、其奴は妙だ。」と主は押入を開けて見ると、案に違はず、鰤と卵があつた。內儀さんは奥へ入つて、もう寢て了つた。

「もう一つは何だ。」

敏作は前と同じやうに、鴉の啼聲を判斷して、

「酒はもうねえが、まだ一と銚子鼠不入に仕舞つてあるから、他を出して飲めとのお告げだて。」

主は鼠不入から、案の如く酒を取出して來た。而して「此は不思議だ。して、今一つは?」

敏作は例の如く、鴉を啼して、熟と其聲を聞く眞似をしながら、

「今一つは、其の、うつかり言へねえが、此がお前さまの身のうへの大事だて。」と勿體らしく主のかほを見詰める。

「それを聞してもらいたいんだが。」

「其ぢや言ツて聞すが、其代り、お前さま其處に今日の賭場で捲揚げて來た大枚の金を持ツてござる。其れを百兩ばかり已にくれさっしやい。」

「此金か。」と主は圍爐裏の緣においた重い財布を取あげて、「あゝ可いともどうせ身につかない泡錢だ。百兩くれてやらう。」

そこで敏作は此の麓の寺の納所坊主が一人、揚板の下にもぐり込んでゐる事を告れると、主は其まゝ臺所の揚板を捲くツて見た、坊主は此時度胸を据えて床下から飛んで出たが、面をも揚げず、其まゝ主の袖の下を潜つて、一散に表の方へ逃げ出さうとする。

「こん畜生、猾坊主の罰當め。」と拳を固めて撲うとするのを、敏作は起あがつて遮つて、

「まあ〳〵、這度は見脫してやらせい。」

「いんにや撲殺してくれる。」

まあま、そんな手荒な事をしねえで、此場は奇麗に治めるが可いだ。」

主は坊主を逃したが、其まゝ血眼になツて奥へ驅込むと、內儀さんは何時のまにか、裏口から逃げて了つたと見えて、姿も影も見えない。

主は齒咬みをして、追かけやうとしたが、敏作は透さず、「もう夜が明けるだ。已らこれでお暇するだから約束の金をくれさつしやい。」と化の皮の現はれぬうちと、百兩懷にして、そこ〳〵に此の大博奕打の家を逃出した。

さて、敏作が一夜のうちに遽に大金を儲けて來たと聞いて、村の百姓どもは皆な不思議に思つて、其譯を聞きに來た。敏作は、「何に、むつかしいとはねえ、馬を殺して、皮を隣國の市へ持出したところ、滅法好い直に賣れて、已ら自分でせえあきれたゞよ。」と澄してゐる。

そこで百姓共は、手々に四十五兩もする馬を殺して、其皮を一と纏めにして、名主を總代に立て、隣國の市場へ持出さしめた。けれど、市へ出てみると、相場は聞いたとは大きな相違で、誰も彼も此の名主の慾張を嘲り笑つた。

百姓等は敏作に一杯喰されたと氣がつくと、一同大に腹を立つて、其旨代官所へ訴へた。代官所では、早速敏作を召捕つて、色々詮議をしたが、こんな妖怪な奴は、此の後も村の百姓を惑はす憂があるからと云ふので、死罪を言渡した。

間もなく敏作は、底に幾許も穴を開けた桶に入れられて、或大河の傍へ持つて行かれたが、お上の慈悲で、一人の坊さんが來て、今水の底へ沈められやうとする敏作に、經を讀ませるのであつた。加之年老つた役人が一人附いて來たが、桶のなかへらおづ〳〵坊さんの面を見ると、其れは何時かの夜、かの博奕うちの家で、生命乞ひをしてやつた墮落坊主であつた。

敏作は役人がお經に體屈して、彼方の木蔭に休んで煙草を喫んでゐる隙を見て、「これ坊さん、お前さんも已れの顏は、よもや見忘れはしなさるめえに、何とか生命乞をしてくれさッしやりさうなものだ。功德になるから、助けてくれさつしやい。」と拜むやうにする。

此時十頭ばかり馬を曳いて、太郎兵衛爺が土堤道をやつて來た。太郎兵衛爺と云ふのは、一体村で評判の慾張爺で、碌々人と交際さへ爲ぬくらゐであるから、全然村の者からは除けものにされてゐる。其れで今度の始末を些つとも知らない。

敏作は早速の機轉を利して、聞えよがしの聲で「已いやだ〳〵、何うあつてもいやだ。」

太郎兵衛は此聲を聞きつけて傍へ寄り、「お前敏作か、一体何うしたゞい。」

「何うもかうもお前さま、」と敏作は低聲になつて、「已此頃些とばかし金を儲けたもんだで、お前は發明な男だから、皆で名主に爲ると言ふだ。けんど、已らどうも其名主になるのは氣が進まねえ。皆はお前、何も難しいとはねえ、此桶へ入つて一日寒晒しになつてをりや、其で譯なく名主に取立てると云ふんで、無理やりにかうして河風に曝しておくだね。」

「むう、其は耳寄だ。已ら其名主に疾から成りてえと思つてゐたゞが、其位の業で名主になれるとなら、仔細はあるめえが……。」

「ぢや太郎兵衛どん、お前代りに名主になつてくれるか。」

「何に誰だつて、此業さへ勤まりや……。」

「だけんど。已らぢや如何だか。」

「其位の業が勤まらねえで、何するものか。」

坊さんがお經を濟して、役人を呼びに行つてゐるまに、太郎兵衛は代りに桶のなかへ入つた。其は丁度朝の未明頃で、あたりは未た闇い。敏作は太郎兵衛の馬を曳いて、急いで宅へ歸つた。

敏作が、ぴん〳〵活きてゐるばかりか、十頭の馬さへ繋いであるのを見て、愚な百姓共は其の神變不思議にあきれるばかりであつた。代官も此には驚いて、手を着けかねたが、慾の深い百姓共は、性懲もなく敏作に向つて、「お前、さうして其馬を何處から持つて來た。」

「馬かね、馬はお前さま、己が桶に入れられて水の底へおツ沈められたとき、段々深みへ入つて行くていふと、自然に桶の底が脫けて、已の體はぶく〳〵沈んでゆくと思つたが、やがてのこと奇麗な牧場の眞中へ立つてゐたらうぢやねえか。已呆れて四邊を見まはすと、好い馬が數限もなくかひ秣を食つて遊んでゐる。已曳きされねえで、まあ十匹だけ持つて歸つたゞね。」

百姓どもは此話を聞いて、皆な爭ふて件の大河の邊へ走りゆき、而して一樣に水のなかへ飛込んだ。

偖して村中の愚かな人は皆溺れて死んだ、智慧のある敏作ばかりが一人富み榮えたといふ。めでたし〳〵。

(グリイ氏、フエレイテールスより)

雄姿未受伏櫪恩　猛氣猶思戰場利
青絲絡頭爲君老　何由却出横門道

●注意　本日本紙十六頁寫眞版附錄一枚

謹奉賀新禧

邇者王師凱旋、東亞和平之局以定、際此新年、人民之歡欣奚若也、以
本行自開設以來、深蒙諸君惠顧、親逢其盛安、得不有特別之舉、以
誌賀忱耶、爰自本年爲始、一切交易、更加改良、以酬諸君之熱望焉、
弊行輪船、擬於今年、添設埠頭、以便乘客貨物、上下方便、仍以
賴朝丸、摩耶丸、日之出丸等號、在日本大連營口各埠、定期航行、及
弊行商業、亦自本年、大爲擴張、輸入綿布綿絲火柴麥粉石炭、如有託本行
其他各貨、而輸送出口者、則爲豆、豆餅、及其他各商品、
販賣者、洊誠信相待、童叟無欺、又從前所販賣之日本朝日麥酒、及清
酒白鹿、本行皆領有專賣之權、恐中外仕商未及週知、特此謹佈

日本海上運送火災保險
株式會社牛莊代理店

本店　大阪市西區西道頓堀二丁目
河邊九郎三郎商店

王師凱旋國威振揚爰ニ諸君ノ前途多幸ヲ祈リ新年ヲ迎ヘ謹テ御祝
詞申上候

弊行滊船部
賴朝丸
摩耶丸
山口丸
日之出丸

商業部
一手販賣

朝日麥酒一手販賣
清酒白鹿一手販賣

松茂洋行

賀正

日營貿易商會
東營口元神廟街

化粧品
洋服附屬品
其他
舶來諸雜貨販賣

淺野セメント
特約一手
販賣店

恭賀新年

登錄商標

大日本政府大藏省特薦指定

布疋
日本帝國出產
色布
花布
手巾
各樣一概俱全

發行

大連市大山通三丁目
永順洋行
營口西北街太古盛油坊西隣
永順洋行
遼陽城內前衙門街
永順洋行
老行在東京府大傳馬町
長井九郎左衛門

雜報

◉回顧錄
（鐵騎將軍逆襲の一週年）

日露交戰に際し大石橋戰鬪後我軍の兵站根據地たりし當營口は征露第二軍の糧秣兵器を堆積せしが我旅順包圍軍の攻擊久しきに渡りて漸く占領の實を擧け北方の對陣猶未た我に利ならさるの時に及んて敵騎の營口來襲は如何に我在留民をして驚愕せしめたるか當時兵站司令官たりし宮崎中佐と軍政官與倉少佐との畫策相俟ちて些の遺憾なく我戰士の沈勇なる戰略は遂に敵騎の退却を餘儀なくせしめたるは吾人天佑の宏大なるを思はしめたると同時に當局の功勞に感謝の辭を吝まさりし就中當時在留二千の同胞か其後方に活躍せし跡を追想するは亦一種の趣味なきことにあらすとせす本年本月は適に其第一週年に會せり乃ち舊記を抄錄して過きし昔しを偲ふの料と爲す

營口義勇團の組織

我軍の露軍と沙河に對陣せしより茲に數月時に少數露兵の逆襲を試むるありと雖も每に我軍の擊退する所となり未た一回も其目的を達せしことなし故を以て我軍の後方各地特に營口の如きは居住民各其堵に安んじたりしが明治三十八年一月十一日午後忽然警報あり露騎數千大砲數門を有し我左翼線を通過して直に南下し來り兵を分て牛莊海城を襲ひ將に我營口に迫らんとすと蓋し彼の目的たる營口の一部牛家屯の我兵站根據地を奪ひ合せて當時滿洲唯一の開港場たる營口市街を侵害せんとするにあるもの丶如し事不意に出で加ふるに我守備極めて薄弱なりしを以て我牛莊領事館は市內の有志者を集合し壯丁召集の方法を講し翌十二日午前一時半敵騎愈々接近せるの報に接し非常召集を行ふ今の至るや奮然起て之に赴くもの無慮五百名を超ゆ柴田領事官補は衆に對し應急の手段として露兵の市中に進入するを防禦し主として邦人の生命財產の保護及市內の秩序を維持する爲め居留邦人を以て一義勇團を組織すへき旨を宣言し土屋統一吉原四郎二人に托し訓練の任に當らしむ土屋吉原の二人は差當り百餘名を衆中より選拔し二三時間速成的に小隊敎練を爲し更に午前七時より集合するを約して一旦歸舍を命せり此際義勇團組織の計畫に就ては柴田領事官補及當時滯營中の西畑騎兵中佐喜多騎兵少佐比留間騎兵大尉熱心助力せられて始終適當の監督と必要の注意を與へられたり

先つ營口警備區域を分て東西二部とし一は海岸より綏定門豊濟門に至り一は同門より通惠門を經て大官塘に至る間を外部の防禦線とし內部に在つては日營ホテルの橫丁より南方に一線を畫して之を東西兩部に橫斷し東部市街に居留するものは東部義勇團に屬し西部に住するものは西部義勇團員として其事に當ることとせり

營口義勇團の編成

十二日午前七時東部義勇團は營口守備隊營內に西部義勇團は元軍政署跡に本部を設置して各其編成を爲すと同時に實地の行動に着手せり

東部義勇團は土屋統一を指揮官とし岡崎潔丸を幕僚とし喜多騎兵少佐を軍事顧問となし西部義勇團は吉原四郎を其指揮官とし深水十八、樺太親吉を幕僚とし比留間騎兵大尉を顧問とす此時東部に屬する人員二百十八名西部に屬するもの三百名あり其部署を分て本部、庶務係、會計係、衛生係、通譯係、傳令係、訓育係、兵器係、及分遣、巡察衛兵豫備隊の各係とす庶務係は係長以下四名乃至七名にして本部內一切の事務を處理せり會計係は東部は關東公司員以下五名西部は正金銀行員以下三名にて經理上一切の事に當らしめ糧餉係は十名乃至十五名とし給養上一切の任務を擔任せしめたり給養に就ては當初部隊自炊の豫定なりしも炊具の不充分なりしにより各旅館をして焚出を爲さしめたり木炭、酒、菓子、の如きは寄贈品甚多く充分各自に支給して猶餘あり湯茶は專ら支那人の賣湯者を招致し自由に給供せしめたり馬糧は軍馬購入委員より送來せるものを以て充分給養するを得たり

衛生隊は十名乃至二十名にして當地開業醫專ら其主任となり特志看護婦數名と係員を以て組織し假繃帶所患者收容所を設けたりしも數名の輕患者ありしのみ別に事なきを得たり通譯係は專ら支那人及外國人に關する事務を取らしめ人員を五名とせり傳令係は主として乘馬の心得あるもの及自轉車所有者を以て之に充てたり

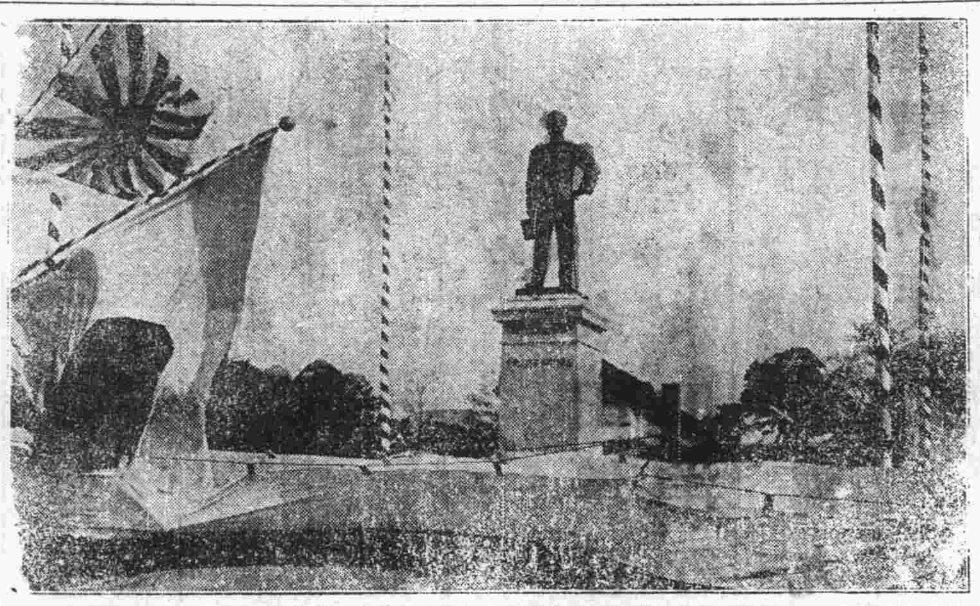
訓育係は集合者に對し軍隊敎育の梗概を授け以て一時の急務に應する爲めに設けしものにして大略整頓進退集合解散射擊及戰鬪間必要なる注意を授けたり此訓育は集合者全部に及はす考なりしも軍事敎育の素養あるもの即敎育の任に當るへきもの丶欠乏と時間の切迫せるため漸く分遣巡察步哨等差當り必要なる百名前後の外に及はす能はさりしは遺憾なりし

分遣隊は各門及樞要の地點に派遣し專ら外部の防禦に當らしめ十名乃至二十名を以て一隊を編成せり巡察隊は分て二とし一は河岸の警戒に任し一は防禦線內部市中の巡邏に當てたり衛兵は係長以下七名とし主として本部衛門の步哨に當てたるものなるも西部に在ては正金銀行の如き特別保護を要するものに對しては特に其人員を增加して十二名と爲せり豫備隊は本部の主力として直接指揮官に屬し前記任務外のものを以て之に充て各隊の應援臨時の斥候巡察等皆此人員中より出せり

兵器係は訓育係員中より兼務せしめ小銃彈藥刀劍等の支給保管の任に當らしめ當時東西各團に有する兵器左の如し

東部　モーゼル　二十二挺　彈藥三百發
　　　マンリツヘル　十六挺　仝五百發
　　　其他刀劍若干
西部　マンリツヘル三十三挺　彈藥七百發
　　　拳銃　三十挺
　　　刀劍　四十振

其他應急の處置として竹槍鐵線を準備す（未完）



川上大將之銅像

◉昌圖通信　筆山生

十二月廿三日第二軍所在地を發して昌圖に達す先つ軍政署に小林大尉を訪ふ氏は營口軍政署に副官として在勤し曩きに知を辱ふせるを以て此次昌圖の一遊乃ち先つ往いて之を訪ふ副官厚遇甚だ到り見聞上に幾多の便宜を與へられたるは深く感謝する所也

昌圖府は元蒙古の地域に屬せるものなるか百廿餘年前來滿洲土民の殖民者漸々長柵を越えて此方面に侵入土着したるを以て清政府は蒙古王に交涉して租借地となし昌圖府を置て之れか監理の府となしたるは百餘年前の事に屬す爾來蒙古貿易の市場となり駸々として長足の進步をなし戶數二千餘人口約二萬を算するに至り蒙古との關係は圓熟に其貿易は法庫門に比して遜色なきに至れり地方物產は通江子に出し鐵路開通の後は日を逐ふて之れに依らんとするの傾向ありと云ふ市場は滿洲稀に見る處の丘陵上に建てられ鐵道と相距る約三里にして道途大小丘の連續せるを以て交通甚不便を免れす昌圖停車場は其地名に因みて馬仲和と稱し我軍終端の停車場たり構內堆積の土民貨物は早く既に火車によりて當府に呑吐せるもの無數なるを見れは此地百貨の欠乏と輸送難は僅かに其運搬に急なりしを思はすんはあらす鐵嶺に次くの重要市場として邦人の注意を惹かすんはあらさるなり地方の民情質撲我軍の恩惠を受くる深厚にして滯陣數月の間我軍の與へし富は多額にして諸民の裕かなる前途の購買力甚大に百種の貨物を此地に致して直接貿易を試むるならんか續て起るへき問題は蒙古貿易にして其趣味津々たるものあらん關內炭礦其他礦物の見るへきもの多く企業家の注意すへきこと尠しとせす我第一線の各軍は既に撤去され僅かに○箇中隊の守備兵を有するのみ地方一帶馬賊の出沒甚しく交通爲めに澁滯を來さんとし兩軍對峙の防禦工事は既に悉く破壞し去れり

露軍の撤退は數日前迄繼續され居たるか急に一律停止せるの情報ありしに見るに全く本國各地動亂に起因せるなるへく我に收容すへき長春以南の鐵道授與は到底急速の運ひとなる能はさるに至らん

賀正
陸海軍御用酒
鳳凰正宗
灘　辰馬半右エ門
營口出張所

廣告

謹賀新年 在東京 中島眞雄

謹賀新年 營口元神廟街 飯塚松太郎

謹賀新年 營口西北街 權太親吉

謹賀新年 營口綏定門街 松江洋行

謹賀新年 營口青堆子(電話八六) 加州組

謹賀新年 營口綏定門外加州組 小泉市太郎

謹賀新年 營口綏定門街 高濱洋行

謹賀新年 營口綏定門街 宮崎工程局

謹賀新年 營口西北街 豐生洋行

謹賀新年 印判彫刻 營口元神廟街 藤森印房

謹賀新年 大和館

謹賀新年 金山事 山本金造

恭賀新年 鹽川商會 主任 鹽川峰吉 梶原太助

謹賀新年 捌荷洋行(電話一四七)

謹賀新年 大坂商船株式會社 百田健次郎

謹賀新年 在東京 吉原四郎

謹賀新年 營口 印字局

恭賀新年 神野良

謹賀新年 山本瀧四郎

謹賀新年 在奉天 三谷末次郎

恭賀新年 永世街七十四號 日清公司

恭賀新年 永世街百廿六號 (米)洋行

恭賀新年 竹村館(電話五十二番)

恭賀新年 二本町 三野傳造 三野よね

恭賀新年 二本町 東京館

恭賀新年 二本町百五十九號 まんなそし

恭賀新年 營口 米田洋行 奉天 米田洋行

謹賀新年 在鐵嶺 岡崎潔丸

謹賀新年 綏定門街遠來洋行東 川畑組 川喜鐵工所

恭賀新年
大阪市本町四丁目 九三組本店
東京市橘町三丁目 九三組支店
清國牛莊 九三組出張員

謹賀新年
酒類雜貨
官製紙煙
有字號 寺村富鄰
營口西北街二百十七號 本店
奉天小西邊門街 出張所
鐵嶺東門外南關街 出張所

恭賀新年
貿易商 營口西北街二百十四號 服部洋行

新玉の御慶目出度申納候
營口 高砂ホテル
此度新たに内地より藝妓仲居數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候 草々
高砂

恭賀新禧
井上公司 井上利八(電話一七三)

恭賀新年
清國營口元神廟街河岸
船舶代理 貿易商 海仁洋行
創立明治二十八年 營業滿十ケ年
歐文電信宛名 Seaman エーコウ カイジンヨウコウ
電話一六 電話一七三 電話一七四
島内義雄 中井和賀雄 張松柏 加幡定雄 吉田鋭男 川口彌藏 藤野亮 安田義雄

謹賀新年
舊年中ハ特別ノ御引立ヲ蒙リ辱ク奉厚謝候尚本年モ相變ス陪舊ノ御引立ノ程偏ニ奉希ト候
新玉号倉庫部

謹賀新正 刀根富太郎

謹賀新年
日本官造紙烟專賣
雙仙鶴牌(ロングライフ)
星象牌(スター)
櫻花牌(チェリー)
百合花牌(リリー)
代代木烟公司
營口 大連 遼陽 安東縣 奉天 鉄嶺 新民府

謹賀新禧
商品目録
諸雜貨
呉服太物 元祿下駄類
かんずめ こまもの類
化粧品
(營口永世街永世湯東大街)
福嶌商會

恭賀新年 東肥洋行

恭賀新年 山田長

恭賀 遼陽西門外 石光洋行支店

英治洋行

土木建築請負業 川畑組

貸家廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
橫濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫動　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺
電話　十番　支配人室
百八番　事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

廣告
來る一月一日より三日まで新年に付休業致候也
明治卅八年十二月卅一日
橫濱正金銀行　牛莊支店

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市穩岐町三百三十八號　日華運輸公司
遼陽　遼陽俱樂部　谷口今朝太郎
牛家屯　平岡組

各種毛皮類廉價發賣
滿洲蒙古各原產地より直仕入致し廉價を以て卸小賣仕候間多少に拘らず御注文被成下度候
營口元神廟前電話九十番
滿蒙出產物取扱商　瀛華公司

醬油釀造販賣
●樽詰　●瓶詰　●桝賣
卸小賣共精々廉價に販賣仕候御進物として至極体裁宜しき特製四合入瓶詰一打箱入も有之候間多少に拘はらず御用被仰付度奉希上候尚御用の節は下名の内何れにても電話にて御申付被下候は丶直に御屆け可申上候
綏定門街　東肥洋行（電話一七號）
二官街　東來醬園（電話百二一號）

石炭廉價販賣
麥酒白鹿新荷着
松茂洋行商業部（電話五十二番）

三井洋行
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨荷
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社鉎
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陇鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請早臨爲幸
總司理人　田中賴之助謹白

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣粗船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便國貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　業亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
係裝運各幫火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包營鎔鑄以應急需久爲　中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛
油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

德商　瑞生洋行
啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本木廠面議
營口西街潮溝西本行主人啓

代代木烟公司
本行專售　日本官造紙烟　星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來爾）清香撲鼻佳美適口而價值極廉　諸尊欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

日商　東來醬園
本醬園開創在營口双橋子南有年係請大日本著名工師自造日本醬油所造醬物料專選上等麥豆曇經沙漏之水寒熱適度加意製出故其色麗質淨味美氣芳可以供上等烹飪之用其價値甚廉非尋常市油所得而及蓋用市造之油烹物之費多而鹽梅之効少若用此油則醬味調和必諧不特于衛生之道受益不少兼爲厚生利用之妙品也賜顧紳商請嘗試之立知本醬園所言非矜張之談矣
本園主人謹白

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡　中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

森病院
一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任產婆大道しげ子）
院主　森孺
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

宮崎工程局
電話一七七番
宮崎宗朝

新荷着
凍結ヲ防ク冷藏倉庫
保溫倉庫
野菜、果物、其他
東店綏定門橋畔
西店第一市場前
金升洋行（電話六十八番）
アサヒ　エビス　兩麥酒會社代理店

今在天津車站拾得皮包壹個內有洋錢頗沉重如有失主即到營口大德通票號說對其內數目即予領取不悞
喬仲吉謹白

一關內外盧漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一海關手續
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大淸通運公司　營口支店

隆慶公司
開設在東圍門外自有碼頭倍豐木局以西南近馬路德記木局以北發售唐山大小塊砟子貨美價廉裝卸舟車極便凡賜顧者請認明招牌庶不致誤謹啓

加藤洋行（SK）

酒保諸君急告
幣店儀今回酒保品全部相片付け度特別大見切賣致す可く候に付至急御來店の上御相談被下度願上候也
●麒麟正宗
●諸罐詰類
●卷紙、狀袋
●菓子、砂糖
其他諸雜貨一切取揃へ誠實を旨とし精々勉强仕る可く候間多少に拘らず御用命被下度奉願上候

謹賀新年
雜貨
醬油　味噌　淸酒
營口西北街
阪神組

代理
道勝銀行
啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商　瑞記洋行代理人謹啓

雜報

偉人と爵位
(東鄕大將と其詩的生涯)

もくあん

爵位は人の尊ぶ所、其の之れあるが爲めに、凡庸の徒も、能く社會の上流に立ちて人の崇敬を惹くに足る、況んや國體の特殊なると我邦の如きに在りては、皇室は榮譽の泉源にして、其授くる所の勳爵は絕對的尊崇に値すべきものなると固より論亡し。上杉謙信が武力四隣を壓して傲然人に下らさるの槪を以て!て、區々四位の爲めに遙に京師に入覲したるが如き、皇室が固有に榮譽の泉源として億兆に仰がれたるの、翅に成文法ありて特に然かりしに非ざるは、從來屢々人の引く所、則ち現代に於ける朝廷の有位有爵者は、之を目するに悉く榮譽ある人を以てする、誰れか復た然らずと謂ふや。

然れども通常爵位は平凡の士に加へられて、其光輝の殊に顯著なるを覺ゆれだ、偉大の人物に對しては左迄其人を榮するに足らさるのみか、其の爵位の人と爲れるが爲めに却て估券を損せるの例も乏しからず。板垣伯は素と偉大の才に非さるも、而も我邦民權家の泰斗として一世に推重せられ、其土佐の山林より起りて自由主義を鼓吹するや、天下靡然として之に趨ひ、遂に憲法の發布と爲り、議會の開設と爲れるもの、伯の力與りて大なりとすべく、たとへ岐阜の異變、不幸其死處を得さりしとはいへ、伯にして列して貴族の班に入らす、單に一平民を以て居る、則ち陋巷に窮死すと雖も、後世尙或ほ其志を憫みて土佐に紀念自由林の造營位を企つる物數寄者の出てすとも限らさるべく、壽ければ辱多しなど、口善惡無き京童の嘲笑は貴に免かるゝを得たりしならんか。露國宰相ウイツテ伯は身を微賤より起して、累遷藏相の要位を占め亂麻の如き露國の財政を調理する者十年、遂に佛國をして絕たんと欲して絕つ能はさる惡緣臣を結ばしめたるもの、其人亦偉大を以て目す可らさらんも、手腕の尋常に非さるは以て知るべく、特に日露平和會議に於て益々其技倆を發揮せるを見るべし。而も其のウイツテ〳〵と呼び捨てにせる際に於てこそ、如何にも凄腕家らしく聞えもしたれ、既にボーツマウスの會議より歸りて伯爵の學銜を加へられ、首相として內閣を率ゐ、ウイツテ伯などゝ勿體振らるゝに至りて、手腕頓に鈍ぶれたるの感無き能はさる、是れ首相としての伯は、朋黨と戰ひ內閣と戰ひ軍後の罷弊と戰ふの實際に於て困難の事情あり、舊日の敏手腕も得て施すに餘地無きの然らしむる所とはいへ、事は偶爾にも一奇とするに足らすや。

之に反し老西鄕は維新の三傑中に於て更に一頭地を拔き、近世の偉人といふに於て南洲獨り其名を擅にせるもの、固と其人と爲りの眞に偉とするに足れるが爲めなるべきも、一には他の瑣々の徒が翩々として廟堂に翺翔せるに拘らす、十年役後久しく叛臣を以て目せられ、絕えて高位尊爵の其身を榮にする無かりしもの、實に偉大の才をして益々崇高を加へしめたる所以にして、若し南洲にして其終りを全うし、位人臣を極めて君主の恩寵儕輩に殊絕せしめ、上野櫻雲臺の銅像をして儼然として金モールに佩劒して立たしむる、則ち安くにか得て其死後を奇にするを今日の如く、後人の尊崇を惹くを今日の如く、而して北米の名士ブライアン氏をして其墓側に徘徊し獻欵として感慨去るに忍ひさらしむると能く彼か如くなるを得んや。

日露戰役中に在りて最も偉人の面目を發揮せるは東鄕大將なり。日本海の全勝殆と人力以外を以て目せられ、米國諸新聞紙が單に大將の報告のみを以てしては戰勝の理由を發見し能はすとし驚嘆せるは、決して諛辭のみにはあらで、實際に於ても神異の成功とすべく、東鄕の名は今や五世界に震動して、兒童走卒尙且つ仰慕措く能はさるを見る、況んや大將の人と爲りは謹厚にして忠悃、未曾有の戰勝を博して敢て其功に居らず、其前後幾十回の歡迎會に臨む、唯た率直朴訥なる田夫野翁を見るが如く、絕ゑて顯貴を挾まさる、則ち其偉勳をして益々灼赫の光輝を添ゑしめ、其人格をして更に一段の崇高を加へしめたる所以にして、若し大將にして世を終ふる迄單に一東鄕平八郞を以て居り、紛々たる爵位の其身を累する無く、時に孤竿瞬然として出て丶綸を渓流に垂れ、時に獵犬を伴ひて野兎を山林に逐ふと、恰も老西鄕の晩年の如くなる則ち其人を詩化し其生涯を詩化し其死後を詩化するのみならす、併せて其勳功を詩化せんとす彼の一時に雄飛して多少世人の耳目を惹ける者も、身神の淪落と共に功業の賞に得て聞く可らさるに至るもの、豈功成り名遂げ而して令名を全うする所以の片道に於て未た及ばさるものあるを以てに非すや、夫れ宇宙の大に蒼茫窮極すへからさるを以て也、爵位の榮は則ち然りと雖も、臣に其人を直路して伯と爲し侯と爲す、是れ即ち驅るに模型を以てするもの、彼の瑣々者に在りては則ち以て榮とすべきも、尋常に卓絕せる者は却て其人を平凡にするの嫌無しとせす。願くば吾人をして此神異の偉功を奏せる東鄕大將をして單に海軍大將功何級たらしめ、後人をして長へに仰いて以て其人と爲りを益々高からしめんとを。

新軍令部長東鄕大將

然れとも勳功ある者の錄せられ、忠勤を抜んでたる者の賞せらるべきは、是れ國家當然の本務にして、殊に國體の殊絕なると我邦の如きに在りては、朝廷の恩賞は悉く之を光榮とせさるべからさるは勿論、實際に於ても一身一門の光輝たるに相違ある無し。憶ふ異日論功行賞の行はるゝ、大將の如きは、必ずや最先に授爵の沙汰に接すべきは固より當然にて、吾人が好事の希望も單に一時の設想に過ぎさるべきも、而も大將にして榮爵を固辭せんとならば、必ずしも其辭無きに非ず、大將が號令の下に生命を失へる幾多將士の忠魂に對し、平八郞獨り顯榮を忝にするに忍びすとせば、道理として何の不可あるを見す、但だ朝廷の授爵の固辭するも詮無きは、板垣伯既に之を試みて其志を遂ぐると得さりしかど、皇室と雖も加ふる能はざるの萬に一ある、翅に其人を奧床かしくするのみならす、我國體をして更に層一層奧床かしくするの效ありとせんか。

漫言

閑勞居士

○戰前に於ける營口は如何、戰後に於ける營口は如何、生產の具合に於て、消費の狀態に於て新期に事業を企畫せんとする者は、此邊の注意就中肝要也

○戰前と戰後と滿洲に於ける營口の地位は如何、經濟上に於て政治上に於て懸隔ありと假定せば原因は何邊に在る、而して其原因は現象を永久に保乎

○露國の鐵道政策は營口の繁榮に如何の關係ありたる、奪ひたるか、將た增したるか、而して政策に伴ふ、土人の傾向は又如何、復したるか反したるか

○日本の政策は自然に一任するか、或は保護を必要となすか、自然に一任せば如何、又た保護を必要とせは、其結果は如何、是等は次に注目を要すなり

○營口港灣の將來は如何、依然今日の如きか、將た或は獨乙の青島の如く進化するの時機あるか、果して進化すとせは、其時に於ける營口の變遷は如何

○將來に於て、實際上營口の治安を維持する者は何人か、日人か將た清人か、若くは其他の人か、維持者の如何が事業の上に與かる難易の差は幾何なる

○戰捷の結果、滿洲內地の各所、新に開放せらる、營口に及ぼす所の影響は如何、盛大になすか、將た衰微に導くか、或は全く相關するなきか夫れ何そ

○眞正の事業家が、第三に注目を要す可きは、即ち復た以上の問題なり、若し夫れ帝國政府の對滿洲政策の如きは、次て豫め研究を要とせんなり、否乎

○聞之く戰後滿洲は、益々列國注目の焦点と爲り、鐵線愈々三省の上に集注すと、果して然らは列國の滿洲政策も同樣細心以て研究を要とすは言無き也

○泰西人の海外に事業を起すや、其の地を以て墳墓となすの決心あり、之れ大に學ぶ可き所、學て固く決心せんとせは、事業に先ち深く前程に注意せよ

火車開行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、三〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

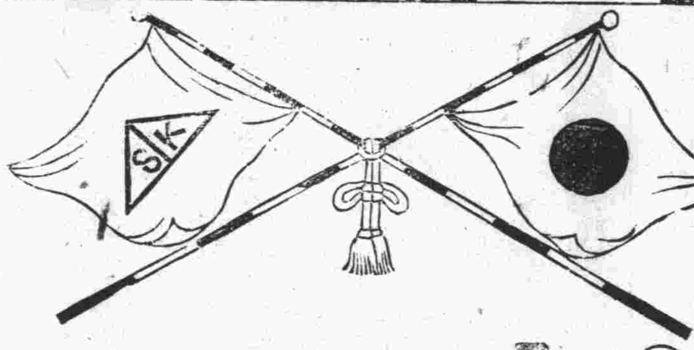
大連奉天間 下り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後三、五〇	發四、五五
大石橋	着一〇、三二	發

上り列車

驛名	發着時刻
旅順	發午後一二、〇三
大連	着五、三三

恭賀新禧



營業品目

○樽物 清酒、酢、味噌、醬油、漬物

○洋酒、瓶詰 ビール、葡萄酒、ウヰスキー、ブランデー、ベルモツト、シヤンペン、クラレツト、炭酸水、味淋、白酒、

○食料品 諸鳥獸魚肉菓物野菜各種鑵詰及ビ瓶詰、乾物、鹽物、漬物、白米、

○茶 玉露、老松、君ケ代、正喜撰、川柳、引茶、紅茶、珈琲

○菓子 東京壺屋製、練羊羹、甘納豆、大阪富田製、和菓子、滋養菓子敷島、水飴、東京森永製洋菓子、マシマロー、フレンチメキスト、ドロツプス、ヂセール、バナナケーキ、ピーナツツ、バタカツプ、チヨコレートクリーム、

○煙草 シガー、埃及各種、スリーカツスル、官煙兩切口付共

○紙類 半紙、美濃紙、壁紙、西ノ内、仙花、罫紙、塵紙、七九半紙、帝紙、狀袋、表紙、奉書紙、洋紙、帳簿類、印刷用紙各種、

○繪葉書 和製及舶來品、アルバム、寫眞帳、比翼封筒、

○文房具 複寫版、謄寫版、眞筆版、

○吳服太物 京都高島屋仕入、西陣織、珠珍、丸帶、肩入地、御召類、縮緬、友禪、元祿形、同紋付羽模樣、同羽織地、關東織物一切、毛布、毛斯其他フランネル、足袋、綿、羽根蒲團、敷布等品々

○洋服附屬品 ワイシヤツ、カフス、ネクタイ、カラー、ズボン釣、シヤツ品々、手袋、沓下、首卷、カフス釦、帽子各種

○化粧品 石鹼、香水、齒磨、楊枝、紅、白粉、洗粉、チツク、二八水、美顏水、

○婦人小間物 鏡、鏡台、櫛、簪、糸入、紙入其他いろ〳〵

○勝手道具 陶器、漆器、金物、及物、硝子製、器具、世帶道具荒物類一切取揃へあります

○樂器 ヴアイオリン、月琴、三味線、蓄音器、尺八、銀笛

○鞄、履物 トランク、柳行李、靴、スリツパー、下駄

○室內裝飾品

○木材、建築材料

○疊、建具類

○賣藥各種

○幻燈器械

加藤洋行

(營口電話八十番)

本店 天津

支店 大阪 北京 營口 遼陽

特約品 菊正宗、麒麟正宗、札幌麥酒、蜂印香竄葡萄酒、牛久生葡萄酒、薔薇牙粉、森永製洋菓子、[illegible]醬油

右の外日用品大概取揃へ誠實を旨とし廉價に販賣仕り候間多少に拘はらず陸續御用向の程奉願上候

啓者本號向在天津日租界開設有年自運東洋雜貨綢紗布疋火柴紙張粧奩顏料罐頭食物玩具傢伙各等洋貨一應俱全素蒙中外士商所眷顧而推許者茲於去歲復在本埠開設分莊如荷賜顧價値格外從廉零整批發均無不可幸希惠臨是幸

東營口元神廟街日本郵便局對面便是

雜報

●清國大官評判記

桐城隱士

本紙第一百號の紙上に有力なる清國大官と題して中央政府に於ける十五名外省に於ける十三名を選定し其官名年齡等を掲けたのは尙讀者の記臆せらるゝ事であらふ隱士は是等の大官中に再三會談して親しくその人物を知つて居るものもある其幕僚に就て彼等の性行を聞ひたものもある單に其官名や年齡を掲げた斗りでは何等の興味もあるまいから極々簡單に彼等の性行經歷及將來の位置に就て少しく評判を試みて見ようと思ふ

（一）欽命全權大臣總理外務部事宜軍機大臣督辦政務處大臣　和碩慶親王（六十八歲）

此王爺は今こそ權勢飛ぶ鳥を落すの有樣であるが少しく溯つて五六年前の事を考ふると丸て夢のやうな次第である皇族は皇族であるが極々遠ひ血統で現皇室に對しては何等の血緣もないのである五六年前までは慶郡王と云つて勢力なく位置なき貧乏公卿で單に散秩大臣とか云つて宮內の片隅に出仕しつゝあるに過ぎなかつた當時は禮親王や端郡王や剛毅や徐桐や榮祿などが威張り散らして居つた時代じやから慶郡王などは彼等の一睨にビク〳〵する位いであつた然るに義和團の變亂に際し忽然として慶親王なるものが顯れ出で變後の措置を一身に引受け列國をして慶親王の名を謳歌せしむるに至つたのである實に有爲轉變も甚しいじやないか義和團後より今日に至るまでの慶親王は幸運兒と申そうか福祿圓滿と云わうか實にや順風に帆を揚げて大江を下るが如き勢ひで何人も彼に拮抗し彼を凌ぐことは出來なかつたのである貧乏公卿たる慶親王をして一躍北京政界の樞軸を把握せしめ清國唯一の權勢家たらしめたるはそも〳〵如何なる動機に因よれるやそも〳〵何人の後援に依れるや乞ふ少しく之を述べんか」

義和團退散後の北京と云つたら夫れは〳〵亂雜と云はうか混沌と云はうか御話しにならぬ情勢で皇太后皇帝は西安に蒙塵せられ有司百官等は命から〳〵八方に散亂し誰れあつて跡始末を着けるものがないソコデ當時軍政委員たる柴中佐（今日の大佐五郎）は非常に苦心し如何にもして話し相手を得ねはならぬと百方手を盡して探がした時に吏部尙書の敬信と云ふ爺さんが居つた此人は割合に進步的頭腦を持つたる大官で彼の端郡王一派の暴擧に反對し其首領の一たる莊親王に向つてしば〳〵諫を言呈した位いである柴中佐は一日敬信老を訪ふて誰れかシツカリした相談相手は居らないかと問ふて見たら敬老ツク〳〵思案の上ヤー居ますぞ〳〵餘りエライ人物ではないが兎に角實直で熱心な男ですからキツト話し相手に適するじやらふと思ふ唯今西山々麓の村落に隱れて居る慶郡王と申す御人でござる此人を引張り出したら西安朝廷も異議はなかろうと存ずるソレから今一人那桐と申す猪口才な男が居るがコレは慶王爺の下走りに御使ひなつたら至極重寶な豆な男でござるドーか此兩人を御引立て下さいと云つた」

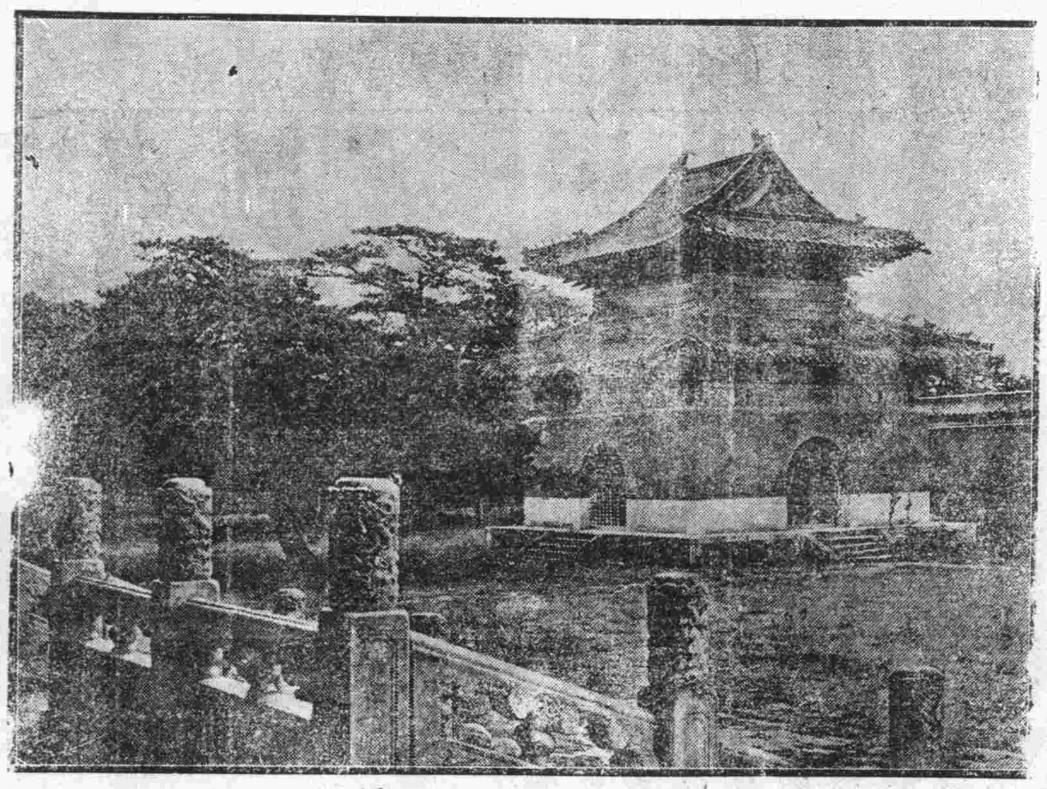
柴中佐は護衛兵を率ひて西山々麓に向つた而して慶親王を引張り出して北京亂後の談判相手と奉つたのである間もなく西安朝廷より諭旨が降つて慶親王は欽命全權大臣と云ふ名目で故李鴻章と共に列國相手に折衝の任に膺ることとなつたサテ對外談判やら內部の整理やら大難關に遭ひつゝある慶親王を始終影となり日向となつて補助し引立て聲援を與へ或は興奮せしめ或は忍耐せしめ以て其位置を保たしめ以て其聲望を隆からしめたのは實に我が小村サンと英のマクドナルドさんと米のコンガーさんとである就中我が國の威光を以て慶親王を押し上げ遂に北京唯一の權勢家たらしめたりと云つても差問へはないのである慶王爺が我が柴中佐に若くは小村公使に負ふ處や頗る大なりと云わなければならぬ」今般滿洲に關する日清談判開始せらるゝや清國全權大臣慶親王は第二回會見以後は病と稱して出でずその終局に近くや病癒へたりとして出席し以て異議なく調印を終へたり』慶親王全盛時代は昨年を以て頂上に達したりと云ふべし小村公使に引立てられて全盛時代に入り小村大使と談判を了へて全盛時代を去らんとす小村と慶親王宿世に何等かの因緣ありしなるべし五年天下を握りし慶親王の幸福や亦羨むに堪へたり

（二）宗人府左宗正管理官學御前大臣廂紅旗都統貝勒銜固山貝子　溥倫（三十六歲）

系統より申さば此倫貝子なる御方は慥かに帝位に登つて居られねばならぬ現皇上よりも寧ろ正統に近ひ御方である倫貝子の祖父なる人は同治帝の長子で現皇上の父上は同帝の四男である此點から見ても倫貝子か如何なる血統であるか推察せらるゝのである現皇上は皇太后の甥である皇太后の妹君は故醇親王妃で即ち現皇上の母君である爾れば威風一世を壓する皇太后が彼を捨て此を採らるゝのは決して無理もない事と云はなければならぬ」

貝子溥倫鎭國將軍溥侗御兄弟の名が世人に知れたのは矢張り義和團後である彼の梟雄端郡王が恨を飮んで新疆に流適せらるゝや其子溥儁も皇太子を癈せられ僅かに不入八分鎭國公として皇室の一端に置かるゝことゝなつた此時に當り皇太子冊立問題は宮中は申すに及ばず政府に於ても外交界に於ても熾んに喧唱せられ或は醇親王（皇上の實弟）ならんと云ひ或は恭親王ならんと云ひ或は濤公洵公ならんと云つて各自我儘を主張して居つた斯る評判のある中で宮中に於て最も勢力あつたのは倫貝子溥洞將軍の兄弟であつたのである皇太后は弟君なる小將軍を愛せられ皇族は兄君なる貝子を推戴致したい希望であつたらしい玆に於て世人は始めて系統正しき皇族中にかゝる有爲なる龍鳳の兄弟が居らるゝことを知つた位いである」

倫貝子は頭腦明晰にして温良君子の風ある御方で溥洞將軍は英氣煥發中々覇氣に富んで居らるゝ御方である貝子は皇上と御仲好しで將軍は皇太后の御覺へ芽出度いやうです北米合衆國聖路易大博覽會開設に際して倫貝子は清國特派使として渡米せられ大商工業國の實況を視察し夫れから歐洲列國を巡歷せられた英國に於て海軍の盛大なるに驚き獨乙で陸軍の堂々たるに感服し米國の富强を羨み日本の進步を嘆賞し歸來一篇の意見書を草して詳らかに列强の情勢を述べ終りに左の如く述べられた「一國の富强を增大にするとは何ぞ曰く富力を增し兵力を强ふする也兵力を强ふせんと欲ば富力を增さゝる可らず富力を增さんと欲せば兵力を强ふせざる可らず此兩者や互に因となり果となり以て其增大を來す也夫れ我清國は甲午の一役海軍を滅失し以て對外商業を保護する能わず現時平和の時代に於ては國內商業より寧ろ外國商業の發達を計らざる可らず外國商業の發達を計らんと欲せば海軍を再興せざる可らず海軍の用や戰時のみに限らず平時に於て最も必要欠く可らざる也」と當時倫貝子の海軍再興論として世人の注意を惹ひたのは實に此意見書である朝廷も貝子の奏議を嘉納せられ機を見て海軍衙門を設置すべしとの諭旨が降つた位いである若しも海軍衙門が設置せられたならば倫貝子は無論尙書として衙門の長官たることは疑ひないことである慶親王老ひ禮親王老ひたる今後の清廷は果して何人か村石となるであろふかと問はゝ先づ隱士は指を倫貝子に屈せざるを得ない



明之十三陵

時刻

山海關至天津　唐山至天津　塘沽至北京　天津至北京　山海關至北京

津郡子至新民屯　山海關至營口　唐山至山海關　天津至唐山　天津至山海關

金州着　大石橋着　遼陽着　奉天着　上り列車

大連旅順間下り列車　驛名　發着時刻　大連發午前七、三〇　旅順着午前一〇、四九

營口大石橋間上り列車　營口發午後　大石橋着翌前

謹賀新年

營口元神廟街

飯塚工程局

電話百卅五番

謹賀新年

商品目錄

白米　木炭　海產物
醬油　味噌　乾物類
石油　麥粉　食料品
紙類　雜貨　一切

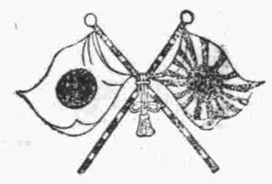
永世街警務部東南筋向
電話百十八番

田原洋行

啓者本行自開設以來久爲中外仕商所推許今擬更加改良如以上所開各商品尤格外從廉發售凡賜顧者祈惠臨爲幸

時計商　營口西北街　大連浪速町　近江洋行

謹賀



新年

正月二日、三日新年賣出の爲め景品呈ト減價販賣

寶石入及貴金屬彫刻指輪類各種
各國金銀懷中時計　各種幷に附屬品式
掛置目醒時計
金銀縁眼鏡及老近視眼鏡双眼鏡

日曆正月初二三即中曆十二月初八初九也是二日所售各貨格外減價並另有品贈以博一粲

鐘表舖　營口西北街　大連浪速町　近江洋行

謹賀新年

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館　東京樓

即席和洋料理　東京樓支店　電話四十四番

店主　熊田兼次郎　電話百七十八番

西洋料理仕出し御需に應ず

滿洲日報社員一同

營口旅館料理店案内 いろは順

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

旅館 千代田旅館 永世街甲八十七號 店主 高橋きみ

料理 沖の島 永世街十八號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號 (電話五一) 店主 麻田久二

旅館 高砂ホテル 料理 高砂亭 西北街 店主片山小みつ (電話一四五番)

旅館 名美屋 永世街森病院前 館主 西野末松

南洲旅館 御用達商 濱田新之助 南永世街拾八號

旅館 彌生館 永世街百六十七號

料理 やよひ 永世街百六十七號 店主 宮下只七郎

料理 滿月 平野町百八十二號 (電話一六二) 店主 青木勝惠

料理 滿洲樓 西北街二百五十二號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理 松迺家 元神廟街 矢野洋行向ひ 店主 山本壽三郎

料理 醉花園

旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館 大和館 永世街六號

料理 第二大和館 永世街百六十六號 店主 前田九一郎

料理 曙館 永世街平野町 營口座向

旅館 金城ホテル 永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

琴 三味線處 并に張替附屬品一切 永世街八十五號二本町角 土生香樂堂

和洋御料理 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎 東京一流 かき飯

營口 御會席料理 既に温泉開業 一力 營口永世街 堀万助

西海洋服店 歐米各國最新流行形 永世街一四一(森病院三軒目)

喜久洋行
●白米 ●糯白米 ●石炭 ●木炭 ●干魚 ●鹽魚 ●建築用材木 ●洋釘 ●亞鉛板
營口永世街八十號 喜久洋行 (電話百五十二番)
卸小賣致候間御用の節は電話又は端書にて御通知次第直に持参可仕候也

酒保品 諸雜貨 御商 神崎洋行
營口永世街甲百廿七號警務課前
▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

倉庫業
倉庫位置
郵船會社碼頭ヨリ西二丁余 商船會社碼頭筋向イ 河岸へ半町ニシテ馬車ニ陸揚ゲ便最適當ナル位置
營口綏定門街(公和窰)院内 新玉號倉庫部 (電話一五七號)

御徳用品 新荷着急告
○食料罐詰○ ○塩魚干魚鰹節○ ○乾物色々○ ○亀甲万印醤油○ ○赤白味噌○ ○菓子類数種○ ○銘茶各種○
林屋洋行 營口永世街警務課前南へ

材木 荒物 販賣
營口永世街第一八四號平野町 秋田洋行
本店 下關 秋田寅之輔商店

謹賀新年
發賣 標子木板 料木
營口青堆子 清水寧木局

東洋醫院 竹村旅館ノ側ヨリ河岸ニ通ズル横町ノ中央角(永世街十八号) 午前宅診午后往診入院随時 山田長

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大薬房
肺癆痰喘氣急傷風痨瘵小見風痨病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特薬◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋薬
淺田飴 あさだあめ
特約大販賣 營口永世街 東瀛大藥房

貸金業
確實なる擔保品には精々勉强安利を以て御相談に應す
南永世街百二十七號 質屋 富田茂治

各種材木 廉價大販賣
壚川商會 營口永世街二本町

滿洲大販賣所
營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ
遼陽停車場前 池上出張店

銘酒 白鶴
新荷着大安賣 新年儀式用品
雜貨商 營口元神廟街 井門洋行
遼陽西門外 同支店

御菓子製造
○蓬萊豆○青梅○輕燒豆○栗納豆○大綠○松風煎餅○羊羹○朝鮮飴○生干菓子種々
營口永世街乙第二十八號 仁木商店

優等清酒

諸罐詰 雜貨類 菓子類 卸賣
三成組

丙午の滿洲日報

一遊亭圓鏡講演

本年は、ひのえむまの歳で、甚だ結構なお年廻りで、世界的に活潑に跳ね廻りたいと存じます、一日の事は朝に考へ、月の事は朔日に計り一年の事は元日に慮りと、昔し聖賢のおさとしで、之をおろそかに致しますと、夕方に烏金、三十日に米屋さん薪屋さん、押つまり、尻切りトンボの、歳の暮には青鬼、赤鬼を見ると云ふ、寸法になります、此寸法のあやまりないとは、手前の命をかけて保證致しますが、あまり役に立たない命で御迷惑ならば、いたゞきまして、二度のつとめを致させます、ひのえむまは甚だ以て、盛な干支で御座ります樣、承りまする、其干支に、當ツタ歳は、本年で、其お正月もさました其元日ですから、一番盛に祝て、本年中の盛ん祝、盛ん悦び、の手前持前の笑ひ祝ひを致して、貴社の笑門福來、千客萬禰來を祝ひ度い慮りで甚だ心掛け好き次第で座ります、凡そ、世の中でひの頭字のつくものは結構なもので御座ります、ひのの出は第一に御目出度いとで、ひの丸は日本の國旗、ひの本と我御國で、ひの袴は高尚デグスナ、ひの下開山横綱は立派デスナ、さりとて、ひの子はきけんですナ、ひの車は感心致しませんナ

サテ此の、ひのえむま、の盛の年に當りまして、の滿洲府縣街の集會に就きましての御話しを御目に入れ御笑を戴き此欄を下り後譜の御目通しを、お願ひ申します、何にか、サテ、一昨年、てのかた此滿洲と申す處は、エライ事になりまして、砲烟天にみなぎり、ビツクリ、シャツクリ、夫れツきり、劍戟の聲地に震い、もぐらもち、と、み丶ずと針金、せ是れが地下戰でウンと首を捻ち切り、ヤツと掻ひ掴みて、投げ殺し、血の雨、涙の雨、修羅のちまたと、なりはてましたが、ありがたい、とには、一夜前の年に、事治まりまして、おぞろきたんぽ、の雁金は後戻り、豊稔の貢きの雪も皚々とタンとより積りまして滿府、滿街の方々は、今日、久方の光り、のどけさ、春の日を、悦び、祝ふと云ふとになりまして、何處に、イコウ、エーコーと春口は重盛街の社内に集るとになりました

オイヤ々、そろ々々時刻だから、誰れか、見ねネーか、氣を注けろよ、ゼンマイ仕掛の人形だと笑はれるなヨ、「ヤ、大變地獄から鬼が來る、夕べ見たばかりだ、元日早々、でぜん前だ、縁起でもネー、勘定殘りはチーと云ツて御くんチー、此處は哥兄よろしく、己はチト御免を蒙ろー、アヽ、オイ何にを、うろたへるのだ、ヤイ、「今、地獄から鬼が、來るから、氣をツけろと云ツたろー、シツコイ、カラナー、「夫れは大間違だ、時刻と地獄と間違ィやがツて、ナンヂモ、氣にかゝるのだナ、今日はナ、滿洲の府縣街の集りツて云ふのでナ、手前と、己と入口取締役、檢査役と云ふ　銀行會社ナラ大イした、ものだが、コチラの住居の間口の巾の利かチー木戸番若しくは下駄番だ、ウ、ソー云ふ内に面白い囃しが聞へるナ、「あれへ獅子舞だ、難有イ元日早々獅子のホラ入り　跳ね込み、鼻からクムか出る、コレハ失禮、牡丹の花も奇麗だ、大きな石橋の舞だナ、「此處は今日の集會塲ですか私は大石橋で「ナル程ソロ々々御客が御入來、お如來樣ダ、オイ御案内をしろよ、

「オイキタ、いの一番、何卒奥へ阿兄驚イタ御客樣だナ、「マテヨ、今日は、チト、乙だぞ、まつ毛に、つばをつけろ、元日早々、コン々々チキはひねーむまに、しあがる、『ソラなんだ「洒落よ、「今年のむまを、ひねツたのだ、「コレがはんとのコエタゴ馬の落洒だ「龍宮の乙姫樣だろー、金魚に人魚に、勝魚にはうぼう、出鱈目に目高、笛や大鼓の笙七律販かだナ、後ろの方は御宮が御供で、龍におんぶして、せりだしだ、肝心の御亭主さん浦チャンか、お見へに、ならないナ、「大方うられチヤツたんだろう「洒落ドコヂヤチー「妾は事は海城供は海龍ではべる「ヘ、彼方へ御通り遊はせ「ブツ馬鹿に御丁嚀だナ、カーキー凱旋色の外套に小サイ國旗を振りかざして、ニコ々々顔の恵比壽顔で、赤イシャツボの兵隊さんが御出でだ「僕は蓋平(凱兵)で「オイ、面白イものが、やツてきた、ゾ、チャン公の熊廻しが來た、オツト素敵々々其うしろを、拜し奉れヤイ、當世式ハイカラ讓の大キいのだ、別嬪だナ、英吉利西傘だ、二〇三高地の庇髮でないのが、乙ダ、珍物々々、ありがたい、おつむ、テン々々の有頂天、ヲヤ、熊を先棒にして來るのが、變挺だナ「何ニをうれしかツて、いやがるのダー、ベラ棒メ、あれは、女ハイカラの先祖日の出島の雲岳讓ツて云ふんデー、へん、熊とは、又好イ對ダ「エー、ヘツピー、エユー、エアー、此處は集會塲てすか、御案内を、お願み申します、讓は　熊岳城(熊雲岳城)す「ヘーヘ、何卒あちらへ「ヤイ四ツ匍イになつて、何を拜かんて、いやがるのデー「お久し振りのお開帳だよ「呑氣ナ眞似をしあがるナ、ヤイ、見ツトモチー「オツト夫もチー「春狂言、曾我の對面と云ふのか、古風ダナ、目がさめる樣ダゼ工藤祐經、朝比奈曾我の五郎、十郎、本塲がのぞき、たくなツたナ、五郎が高麗藏、十郎が六代目、朝比奈が澤瀉屋、工藤の役に困ツたナ、八百藏かナ、連中が大分タントダナ「カタヂクネー、カーツプ、此の祝の席に、復州(復讎)ダー、案内サツセイ「ヤ、コレは、六ツかしいや、だが、通らツせいだ「今迄に、くりこんで、おいでの方々は、おはてびだがお近いからかナ、汽車もあるから、着時刻にはドツト一度になるだろー、時刻もつまつた、しツかりしろよ「オツト合点、後ろへ鉢卷、逃げ出すばかり「ヤーヤ、大分、込みやつて、きたゾ、あれへ、みな、此處へ御集りの御連中ダナ、何卒皆さん御名告りの上、サツサと御遠慮ナク、會塲へ御くりこみを願ひヤス「大キな御腹だナ、まだ、お年もお若い樣だが、御苦勞樣だネ、こんなのは、一倍と、御氣の毒だ、ヤレ々々肩で息をなさる「ヘー、ヘー、あなたはナ、懐仁(懐妊)で、ほんまの滿洲稱やス『生れる子はなりんぼだろー「シー、何故だ「てゝなしだ、タンと鎹餞の差を持て、きまりゝ、わるそうに來るが「私は滿洲の通化(通貨)て何卒お通しを願ひたい、ものです、「福錄壽が見へた、ヒドク、白くお白粉を塗つて來たものだ、雪がつもつた、わもけてあるまい「拙老は遼陽の白搭(白頭)でござる「あみ笠に、棒縞の白小倉の綿袴、胸高々と、兵子一反、背には尺八、手には月琴、えび茶式部の、ツイ、チヽクツタ、なれのはてが、ソレホーカイ、癪に、さわるナー「とーりの、八聲ーに、あーら玉の一年立ちかへるけーさの、はーるーよりは私は九連ヂャン(城)の方が得手「キレイなのが現はれて、きたゾ、日の出に松に鶴、梅に櫻、赤丹、青丹、ピカ一、雨ゾロ「哥兄横濱ダナ、丁半は見へネーか「じようだんぢやチー御手が、這入ると大變ダ、お引き退りを願ひたいものてグスナ「イヤ私は御心配になるもので御座りません、ピカても、御供と兩人、吉林(きち)に鳳凰御通し下さい「鬮取が見へるが、千兩幟の樣が嶺關の樣ダガ「アイわしは、鐵嶺てゴンス「道理て稻川關に、やられて、首から下の骨組みが違ツた「征夷將軍織田春長公、朝ツぱらから、大分御機嫌だチオヤ〱おべゝを泥にして「此坊は春長なれども、スツテン、コロと、さかさに倒れ申して長春へヽヽヽ「ヲヤお婆さんが、腕白ツーな小僧を連れててるが、大分、遠方から、きたと見へてくたびれた樣ダナ「此の兒は何處へ奉公に遣りましても戻ツてきて、困ります「アー夫は法庫門(奉公御免)だナ「大キイ、看板を持ツて來たナ金字で美事の筆蹟ダ實物にても、なりツーなものだナ「私は滿洲總締めの奉天(本店)で今日はいろ〱と御骨折りて、誠にありがたく存じます「ドーゾ、皆ナ御連中御待チ兼チ、早速御通り下サイ「ヤレ〱之て一くぎりだ、一服ヤローカ、アレ見や、淺草公園の、花やしきの、呼び物の兆々が、やツて來タ「是は風俗壞亂だ、「私は金州牛島の貔子窩から、まいりました、何卒今日の御集りの内へ一イヤ那方の、とこは、今日の、集會の、繩張外て御氣の毒樣ながら御斷り申します「オイ哥兄、乙ナのが來ル樣だから、モー門をしめ樣ヂャチーカ「ヨカロー「ガヤ〱人聲がするナ「モシ〱私共は北の方から參りまして、後れました、何卒入塲致さして下サイ「どなたです「私共はハルビン、チヽヘル、ベトナ、ヒンガン、ハイラル、ヘーヤンスースー「是は堪らナイ益々彌々以て治安妨害、風俗壞亂の連中だぞ、チヽクル、ヘルビンハイラー、ベトスースー、もういけません、此方は物堅いもの、ばかり、何づれ那方の取締から、御掛合ひ濟みに、なつてから、御通し申すとに致しましよう、

「皆な揃ひましたチ、十八枚の屏風を、ひろげた、のは立派てすナ、シカモ南側、日當りの、い丶、とこへ御客樣を並へて、社も盛大になりましたナ、御客樣が皆ナ日本式にナツテ來られたのは何より、嬉しーチ、何ニか、別に催しとか、ナイシ又御馳走てもあるだろーがナー「ナンデも能クは知ラチーガひのえむまの曲藝を見せるそーだ、ヤー出て來た、客の前を一遍グルりと、二遍目には新聞を馬の背に載せて出かけた、アヽ馬が跳ね、新聞が跳ねヽヽヽヽヽ滿洲日ツぽーが跳ねて滿洲日ぽん

東來醫園

謹賀新年
營口元神廟街
木下洋行

新年
旅順口
石光洋行支店

行員一同

土木建築用鐵材料
ストーヴ及鑄物諸般
其外御注文に應し製作す
定商會
門東街
喜工場

地敷
右御望ノ御方ハ御來談願上候
二本町
松永組出張所

芽出度新年を賀す

三日月樓

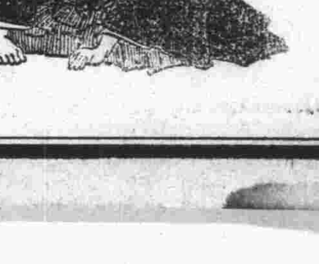
仲居
たね
さと
りん
りつ
こと

松
竹
梅

藝妓
福吉
福助

營口永世街
三日月樓主人

舊年中は一方ならす御愛顧を蒙り千萬奉謝候尚ほ本年も倍舊御引立の程偏に奉願上候　百拜



恭賀新正

江副洋行

滿洲

有嘴紙煙
絲煙各種

一家專售

謹賀新年

陸海軍御用達

營業種目
和洋諸雜貨、吳服太物類、白米、日本酒、海産物、味噌、醬油、麻袋、

對馬嚴原海産物問屋組合特約店

營口元神廟街　華信洋行
芝罘太平街　華信洋行
旅順三笠町　華信洋行
大連羽後町　華信棧
膠州灣青島　華信洋行
安東縣中富街　華信洋行

清酒　金露
右特別安價御相談可申上候

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

雜貨卸商
在營口元神廟街
關東公司雜貨部

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尙なり

釀造元　大阪朝麥酒株式會社
營口發賣　關東公司雜貨部

御旅館
奉天　小西邊門內路北
茂林館
追テ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ
家屋宏壯接待優遇

官製口付莨、文房具
和洋酒類
罐詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
卸商
營口西北街
（土）豐生洋行
（電話十三番）

●アルボース石鹼多數着荷
材木賣藥
書籍雜貨販賣
埃及煙草
木材、藥品、書籍、煙捲、各種氏樣貨出售
營口永世街七十四號
（△）日清公司

旅館　營口西北街　高砂ホテル
御料理會席　營口西北街　高砂

御料理
營口元神廟街
本店　松月亭

謹賀新年

陳者舊冬中は四方御華客樣方の御愛顧を蒙り忝く奉萬謝候尙本年も不相變賑々敷御來臨の程偏に奉願上候　謹白
一月元旦

支店　遼陽城內西街　滿洲ホテル

會席料理
三日月
營口警務課前南に入る

日用品雜貨
軍隊用雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
御小賣
營口永世街百七十三號第二市場東側
石原商店
其外種々新荷着精々安價販賣

會席御料理
（いろいろ）
天津日本租界
敷島
新電話百八十六番

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

新貨到着安價販賣
一內外雜貨、酒保用品化粧品、洋服シャツ類
男女靴製造靴用皮道具并ニ靴　下駄
（電話一〇六番）
播磨洋行
元神廟街百三十號

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時ニ開業
奉天小西門外大街路北

從前遼陽將校倶樂部裏に於て日本館支店三野傳藏と共同營業仕居候處今回合意の上私一手に引受け坐敷向大修繕を加へ大御宴會は勿論御一人樣にても特色の清潔と廉價を旨とし大勉强仕候間多少に不拘御引立の程奉願上候

遼陽西門內將校倶樂部裏
和洋會席御料理旅館
山田セイ

福
雜貨新着
●純航船最新荷　清酒白鶴　番印醬油　半樽小樽
●上等菓子種々　●旅行用鞄靴
●防寒シャツ沓下手袋　●筆墨紙帳簿
●重箱花月臺　●亂れ箱其他漆器種々
●晒飴片栗干饂飩素麵
●鰹節茶葡萄酒食料罐詰
●白毛布羽根蒲團
●正月用會席膳吸物椀
營口元神廟街
憲甲第二百二十一号
雜貨卸商
田中洋行

大連東洋ホテル

●大連東洋ホテル
近民政署前通り兒玉町に在り
大連鐵道停車場附

●大連東洋ホテル
四階建にして而も高地に建設しあるを以て大連港灣の山水及大連市街の光景は一望の下にあり

●大連東洋ホテル
和洋客室の設備あり內外貴賓の宿泊に適す

大連東洋ホテル

寫眞
奉天府
大南門裡路西
永清

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理
（電話[illegible]十一番）

北京
扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室清潔料理鮮新

◎フレノロジー
頭腦を觀察して身の上はんだんをなす
營口豐濟門街廿三號李俊氏宅の西半町
利生堂

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　日營ホテル支店　主任井上源吉

御料理會席　菊水館　主任朝枝園槌

旅館西洋料理　遼陽館　主任永瀨宇吉

旅館料理業　公陽館　主任宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任山根初之丞

御料理色々應御注文　凱旋亭　主任古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任木村虎吉

會席御料理　玉家　主任西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任石田

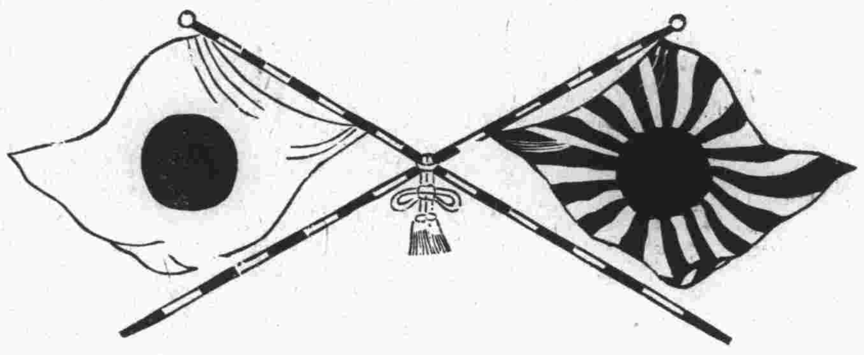
和洋會席御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町
日本館本店
奉天小西門外大十字街北入橋町
（電話百三十番）
日本館支店

各位樣

謹賀新年



第三樓内

仲居

なか
すゑ
きく
ゑん
たま
千代
とき
はな
ふか
かね
みつ

藝妓

蝶壽　ふひ
一二三　小静
よね　喜多八
雪　彌次
大吉　小万
三光　三郎
梅次　五郎
十郎

第一營口ホテル
元神廟街（電話八十四）

第二營口ホテル
河岸通り（電話百五十九）

第三樓
元神廟街（電話七十九）

店主　粕谷忠兵衛
支配人　菊田鉢之助
謹白

新年祝辭

滿洲日報

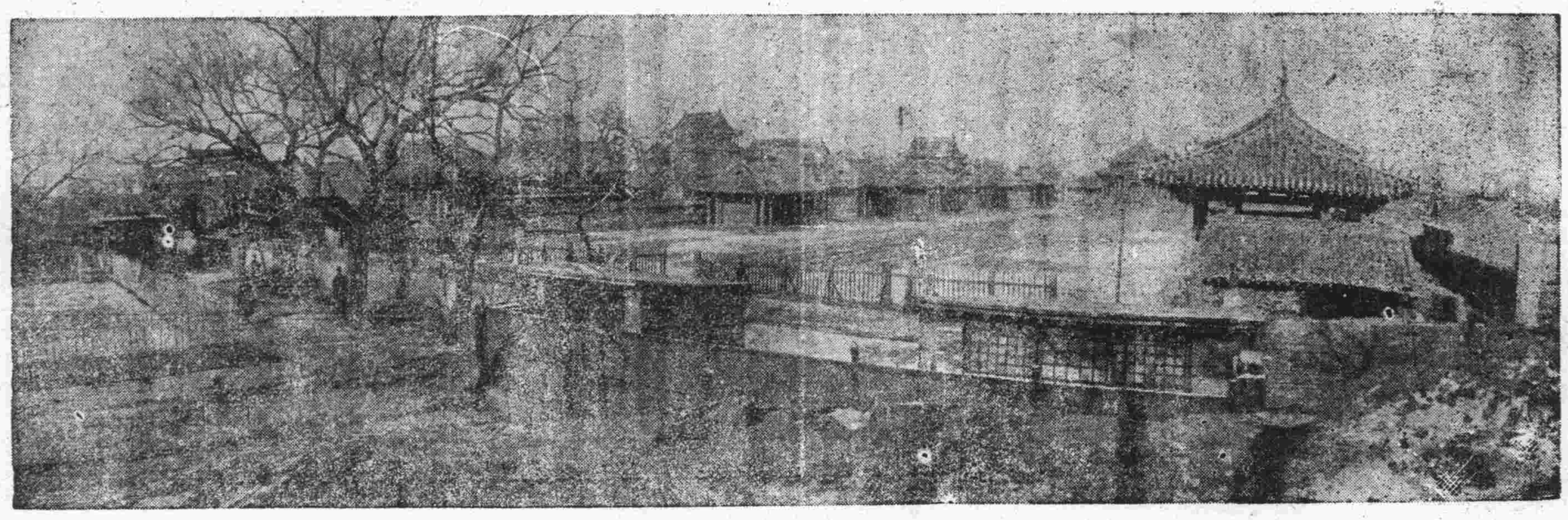
煦煦乎氣漸東陸。候屬靑陽。履端肇慶。首祚迎祥。柏葉椒花。幷堪獻頌。桃符葦索。俱列門墻。斯何時乎。蓋新年也。夫日本古亦與中國同歷數也。維新以來。自政治法律。以及服物采章。靡不摹仿歐風。大加改革。蓋耳目一新。而精神自爲之一振也。易曰寒往則暑來。暑往則寒來。寒暑相推。而歲成焉。似亦時令之事。無足異者。然而日人處此。則回思一歲之成績。朝野上下。有不覺懽忻鼓舞。共樂爲此一大紀念。以記已往。以振現在。以厲將來也。夫日俄之戰。豈偶然哉。當歐勢東漸。處亞洲大陸境上。豆剖瓜分。其機間不容髮。黃人白族。其勢必有所爭。而中國以創鉅痛深。心有餘而力不足也。日本仗義出師。不惜糜費數百萬金錢。犧牲數百萬性命。以爲東亞爭此土也。義正而詞嚴。理直而氣壯。一戰而俄之陸軍敗。再戰而俄之海軍潰。三戰而俄人力屈乞盟。而滿洲之地。向所盤踞把持。恃爲己有者。拱手而授之他人矣。如驅魚鱗而入巨壑。如偪虎狠而投檻穽。國威由此益振。民氣由此益伸。偉烈豐功。懍然在目。迄夫都媾和。珠槃玉敦之間。一示以寬人之心。而絕不多所要挾。原此次戰爭之起。實爲東亞和平。既達其目的。遂其心志。初不必爲已甚之事。予人以難堪。戰局既終。復派全權大臣。與我國會議交還滿洲事件。不數旬而協商已定。雖其詳細條目。尚未發表。而徵之兩國全權相親之態度。兩國人民相洽之現情。利害既同。心思一致。當確有保遠東之大局。圖永久之和平。使中日兩國之朝廷。同受其利益。中日兩國之國民。同享其幸福者。而此約之成。適於歲之杪。固不得謂非經天偉地之事。而得於此時遇之。中國人之歡迎者。固衆矣。而日本於與國密接之關係。一旦確定其基礎。其歡迎又不知若何。至於英日新訂同盟。各國改派大使。凡一年所經過盛大事業。罔非因此次戰事。足喚起全世界人之感情。足惹起全世界人之注目。而大爲之影響也。今明治二十有九矣。戰爭之局以終。和平之局以始。夫執東亞之牛耳者。日本與中國耳。中國土地之廣。人民之衆。物產之富。文物聲明之古。而特以狃於私習。知保守主義而略於進步主義。遂至搏搏大地。芸芸衆生。處此弱肉強食優勝劣敗之時期。而幾不能自振也。今幸發憤爲雄。朝政日新而月異。然而變革之初。一切新政新法。猶未悉臻完備也。日本在亞洲爲文明先進之國。其變法中所遇風潮。所經歷史。皆足爲我前事之師。而取而斟酌之。損益之。其成功較易。而收效亦神。夫日本亦正著師人國者。維新以前。一取中國之文明。而擷其精華也。維新以後。一取泰西之文明。而會其體要也。日本以師人而強。我即以師日本而強。証之國際。驗之輿情。攷之天時。察之人事。兩國之距離。愈縮愈短。兩國之交誼。愈結愈厚。中日邦交。益形鞏固。遠東大局。永保和平。固皆可於此時期之也。記者躬逢其盛。特吮墨濡毫。祝新年。正以祝新日本也。祝新中國也。祝新東亞大局也。

（清國風俗）

白話

記北京巡警事

北京自從調來天津巡兵後。氣象爲之大變。所有前三門外。（正陽崇文宣武 名前三門）來往車輛。都一順靠著左邊走。一個項一個。絲毫不亂。曾有人在前門外。東月墻石道上。見有一輛双套重車。在前行走。後面一連跟著許多車輛。第二輛是單套轎車。第三輛是人力車。第四輛是某侍郎的洋式四輪馬車。第五輛是菜籵國人坐的兩輪馬車。因有重車在前。各車都遵守巡警章程。一輛也不敢望前開過去。但見警兵。手拿黑漆棍。指揮頭一輛重車。加鞭速行。並責告車身太重。牲口太弱。以後宜少裝載。否則不准入城等話。又前門大街。所有魚攤菜攤。以及雜項各攤。都一律轟散。魚攤搬至打磨廠內河沿兒上。大街兩旁。都立木標。並用鐵絲攔住。寫明某處停放轎車。某處停放人力車。並在木標上。橫一塊小板。畫明轎車人力車圖樣。至正陽橋上。靠西橋邊。向來是停歇轎車的。北京話。名站口車。現也不准停放。橋本分左右中央三欄。現在但准中央石欄內。分東西兩行。停列人力車。此外不准停歇一輛。又大柵欄胡同口內。也不准擺地攤。因人多街窄。不便行走。進出口各車輛。巡兵預爲調度。或令在口內暫等。或令在口外暫等。免致爭亂。所以近來大柵欄西。觀音寺東。煤市街北。煤市橋南。十字路口。最容易叉車的地方。近數日內。雖各戲園散戲的時候。也不至於叉住了。全球萬國沒有的惡狀。一旦革除。眞是大痛快事。又宣武門城門洞兒裏頭。向有許多拆字的。起課的。算命的等等小屋。七高八低。頗爲腐敗現象。日前已統通轟掉。小屋也統通拆去。肅然一清。掃盡毒霧。只剩了一座小破廟。還沒有拆毀。想必也快成化身正果了。有人說。全行拆去。係爲修路起見。不知確否。容再察看。近日巡警部。新出幾張告示。一爲招募巡兵。年歲以二十八爲合格。目力須能辨別一千尺以外。手力須能平舉一百斤以上。五官不全的不收。身體單弱的不收。樣樣都說到。就是沒有提起每月餉銀多少。所以聽告示的人。都看畢快快而走。餉銀這一項。是中國當兵的第一件希望事。如能多給餉銀。人就踴躍都來了。一爲勸告人民。不拘何人。都宜靠者左邊走。不明白警章的人。應由明白人告知他。小孩子們不懂事。應由家中父兄告知他。果然各街行路的人。整齊劃一。也是文明氣象。免使外國人。譏笑咱們人民野蠻不開化。一爲曉諭警察是保衛地方的要政。外洋各國。都很敬重警兵。警章總要遵守。因工巡局巡捕不毂用。由天津衛調來常備兵一千名。卽用原餉。幫同管理地面等話。這幾張告示。話都說得很懇切詳明。足見巡警部設立的好處。總觀前三門的協巡兵。在宣武門外一帶站崗的。更爲認眞盡職。由城門洞出入的車輛。固然指揮左右。與來往的人。如有靠右邊走的。也必攔住令他向左。菜市口的協巡兵。也極認眞。左右監視。不使一車亂走。大街各口。有貼報的地方。巡兵也很保護。曾見某惜字館的苦力。在墻上撕揭字紙。巡兵趕緊走去。指著報紙。嚷咐道。這是新聞報。是給人家瞧。開通風氣的。不可撕去。又見有紅貼戲單的。巡兵也告知。不可將報紙蓋住。即此數端。可見協巡隊明白事理。於地方上。實在大有益處。從此越推越廣。人人都明白警察章程。也不至在大街上打起架來。也不至隨地便溺。任意糟踢污穢了。文明程度。不退則進。執筆人盼望得了不得呀。



（奉天府舊宮城之全景）

奇奇怪怪

（天氣雷）泰西某格致家。造出一種氣球。球形頗小。只要加滿天氣。就能載重三十磅到四十磅的物件。離地上升可升至一千尺的高度。譯名叫做天氣雷。球雖是圓形。一頭却稍小些。配成一個金管。內安電機。能燃球內所裝的天氣。球底掛一物。彷彿筐子似的。內中盛滿最烈的炸藥。炸力異常猛速。到打仗的時候。用這天氣雷。攻擊敵人。最爲簡便。」

（黑雲石）化學中有一種石類。叫做黑雲石。製法取細碎砂石。放在一大鐵桶內。用爐墊墊高數寸。鐵桶旁邊。擱鐵鍋一箇。內裝柏油和烏山油。分兩要平勻。融化的時刻。須三十六點鐘。化成灌入鐵管中。通到鐵桶內。以浸沒沙石爲度。然後取出。曝露在磚瓦廠的場上。候乾透。再用磨光石礎磨幾次。就潔淨光滑無比。成了黑雲石事」

（木漿絲）新近有一種木漿絲。譯名叫做塞留洛司絲。用天氣將木漿汁從小洞機器內。壓出細絲。再取那細絲。併六根絞作一根。即可織成綢緞。作衣料用。用木製絲。眞是巧奪天工。」

詞林

和冷泉伏民入藏留別八律勉步元韻卽乞病鴛先生政刊　江東丙子生陶巽人未定草

唾棄功名卅載遲風潮學界黨人碑荻蘆秋夜茫蘭痛萱草春暉芍藥離海上躍魚蠻府語客中匹馬渭城詩雞聲蹴起劉琨舞猛着先鞭努力持　家風松菊慕陶潛甲子新編筆底箝仕路貂裘蘇季敝盜泉跖飲伯夷廉夢叫枯奪生花管書癖燒殘製錦籤垂老班生歸白首刻中西域莫遲淹　幾人馬買吏軍切鶺泣大津上谷橋奏凱皋蘭新使節屯營細柳故侯條北征感事爭紓憤南嶽移文漫獻嘲一領儒冠今著溺仗誰兵甲誓潛消　玉關盼守奪松亭元夜燈張說狄靑鄧艾萬重工襲險伏生八十誤明經唾壺地斫十郎劍勒石天標寶憲銘此去胡塵霾滿目摩挲身世一靑萍　諸公袞袞謝朝簪七尺昂藏仗季心氈毳略獎荒白草麒麟臺閣鑄黃金溪蠻鳶跕危扶亂國局棋翻到今大意蒼茫八意孀新亭淫盡楚囚襟　微官被縛薄於蟬蓬梗浮飄遣戍邊正則叩閽門萬里安仁掠鬢雪盈千定謀帷幄關中箸對壘沙場箭上弦心事闌成蕭瑟甚迢遙南浦貯愁年　山河破碎視重新一櫬曹瞞座上陳憔悴四川窮老杜綱羅東閣詐平津蒲萄有使功襄漢草木皆兵捷報秦獻納契丹爭兩字料君龍性總難馴　阮籍年年託詠懷茅庵何處地名佳荒原廣武愁三省老淚痛途繫兩淮砥柱狂瀾勞手挽舳艫戰艦盡才排子卿行矣河梁別旄節攜歸禍祿皆

美女篇　仁和徐耐庵稿

高樓有美女乃在南山隅春日求柔桑秋夜繡羅襦終歲自勤苦明月悲影孤纖手拭菱鏡光滴丹唇朱釵飛雙卞燕耳約人秦珠金蟬侵黛綠寶髻盤雲鳥粧成移蓮步仙佩動瓊琚窈窕自殊衆進退復踟躕微生托造化月如驅駒盛年難再得容華易萎枯君子盍早逑蹇修何滯濡明妃不忘漢越女會沼吳巾幗有高義丈夫恐不如倉英抱空谷遲暮傷蘼蕪

鳥雀篇　武林耐庵徐草

庭中有宿鳥天寒恒苦饑朝飛暮息不得飽月明日出時自啼簷前有籠雀稻粱常豐足主人視之太殷勤渴則爲飲垢則浴湘竹爲門玉爲籠大寒已暮時遮覆鳥自嗔々雀自鳴空庭遙對頻相囑咿唔聒雜人難測似羨庭鳥無拘束我觀此意心中測鬱鬱終朝難自得依人亦是籠中情寒則爲衣饑則食何如庭鳥殊自然東西南北憑雙翼

●酒保解雇廣告●
當部酒保平岡組今般解傭候條自今何等

旅行中ニ付年始ノ禮

中外要聞

●論拆板棚　聞外東華門以內甬路兩傍各商業搭蓋板棚各灘等項昨奉警部徐菊仁尙書諭派步軍統領衙門大臣轉飭該旗各官知悉限半月之期將所有板棚各灘一律拆竣不准在此搭蓋以便修造石路建造路工廠之用

●雲南薪餉奏銷　戶部咨催各省團練應支薪餉按年造册報部査核當經滇省團練處及善後局詳稱于去歲由正月起至十二月止除農忙停操四個月外仍按月加挑半班送營訓練隨時校閱每月薪餉銀一千八百六十六兩四錢計全年共放銀二萬二千三百九十六兩八錢於鹽庫溢課留備邊防項下如數支放造具奏銷清册咨送戶兵科各處査照可也

●監獄一律改良　政務處議各省改修監獄以恤罪囚原奏內稱環球各國監獄無不潔淨中國定例本極周密無如晚近以來漫不經心大率地狹人稠汚穢狠籍擬令各府廳州縣將監獄房屋整頓重修狹者推廣卑者升高務使出納空氣不至觸穢染疾務當加意体恤以保衛生通飭各省一律照辦云云

●以常備兵駐紮禁地　聞日前商部大臣振貝子單銜具奏請將前朝午門端門天安門各示門之堆撥八旗兵丁一律裁撤均改常備軍駐紮所有禁地皇城外圍牆支搭兵棚以備來往梭巡此摺奉　旨依議

●蒙古防務　政府擬蒙古防營馬隊一百名係爲保護游牧巡緝盜匪之用其餉需在於牲捐項下提撥現當要政繁興需款孔亟擬飭馬隊由蒙古兵中挑選有底餉者飭令兼差則口分自應核減以資撙注而節糜費云云

●鹽務保案之預定　聞吏部鹿尙書擬定章程凡勞績各項鹽務官員不准保地方正印官階其鹽運同運判均升知府鹽大使經歷應升知縣近年各省保案鹽務人員請保前項官階者每案多則十數員不等往返駁查徒多周折現擬定章鹽務各員保加地方官階者不論正印佐貳補交分發指省銀兩俟交清後按班補用

●增放粟米預聞　聞京師廣仁堂內收養貧民無倚幼童並守節婦女等每年恩賞粟米三百石前已領訖京師地面廣濶貧民甚多老少婦女日益加增尤堪矜恤捐資不易惟有懇恩再賞給粟米以濟按口授食之需聞此摺不日入奏云云

●非親子不得承襲　政務處議定世職官員無親子者不准承襲

●各公使定期覲見　日昨英法德意美俄各欽差至外部會晤請中日成約向外部大臣賀喜並請奏聞　大皇帝定期覲見

●軍政改良　政務王大臣議定此後官兵軍政仍用槍砲一律將弓箭裁撤日前弓箭所挑之兵缺從新另挑難挑中者亦皆不算

●預防私鑄　戶部尙書鐵大軍機通咨各省督撫將所鑄解京銅元查明共若干箱並繕寫清册送部存案以杜私鑄銅元之弊云云

●改造磁器　商部日前電咨九江道仿照乾嘉年間五彩花樣燒造磁器若干桶期於明年賽會以充陳列云

雜報

●祝賀新年　本元旦日本埠與倉司令官於午前十一鐘至十二鐘在軍署樓上舉行日清兩國人之祝賀式自午後一鐘至三鐘在軍署官舍受在留之內外各國人民之祝賀

(帝國皇帝陛下及皇太子殿下)

●冰牌擁去船板　前日本港汐溜急下擁擠冰牌片片西流惟時渡河諸人羣立南岸疾呼舟子西來船僅一隻擠人渡錢五元乃皆登舟北濟而支撐艱澀抑拒不停未及河中來巨冰擁四船板向西疾馳舟子八人莫可用時値河風殊緊激湍急流轉瞬江天遠去如驚聞內有糧台內茶園優伶四名越二日而人與船板杳不知所影響云

●車店失愼　昨夜初更時驟聞警鑼喧鳴人聲鼎沸出視西官塘此濃煙騰起烈焰飛空風吹火星向南飛落急遣人前往偵探回云乃萬泰永小車店災遭焚如不戒近詢未詳火之來由焚燬房屋數椽內有寄存布貨多件幸有憲兵巡勇督責水會人夫急力撲救越有片時即滅云

NEWCHWANG, MONDAY, JAN. 1, 1906.

HAPPY NEW YEAR.

Standing at the threshold of the New Year, we take the pleasure of sharing with the buoyant Muses an "Advice from the Old year" from the maiden pen of a Newchwang bard who is old only in his wisdom, and, from the modesty of his years, has exacted a promise from us not to disclose his identity.

ADVICE FROM THE OLD YEAR.

(1) Hail, the advent of the New Year,
To the Old a last adieu,
Taking with it woes and sorrows,
Giving place to hopes anew.

(2) Let the past be gone for ever,
Should that past contain hard luck,
But if bright blend it together
With the future, and Buck up.

(3) Tell you straight it doesn't pay you,
To bewail the bygone year,
Or the errors and mistakes made,
Tho' perhaps they cost you dear.

(4) Everything has got a reason,
As the mason sadly said,
When another careless builder,
Dropped a brick upon his head.

(5) "It's my fault and mine entirely,"
Moaned the mason somewhat sadder
"And I know that in the future
I don't stand beneath a ladder."

(6) Hark you, listen to the ringing
Of that far and distant bell,
Try and comprehend the story
That it's trying hard to tell.

(7) Of a young man speculative
Thought himself so mighty tall
Sold upon a rising market
Bought again upon a fall.

(8) Now he knows he doesn't always
Read the market like a book.
Let us hope he starts the New Year
With a brighter, gayer look.

(9) Well, I'll close this little lecture,
Hope my meaning you have caught
That you'll profit from the lessons
Which you have from past years bought.

(10) *Au revoir* with all good wishes
Now I leave you, friends so dear,
Hope you have a happy future
Yours with love, The Old Past Year.

Lt.-Col. Yokura will be pleased to receive the official congratulations of the season from the Foreign, Japanese, and Chinese communities in the up-stair room of the Administration Office, between 10 and 11.30 this morning.

The Administrator will be at home at his residence from 12 a.m. for the informal reception of callers of all nationalities.

Mr. and Mrs. A. Segawa will receive the congratulatory calls of Newchwang residents at the Japanese Consulate, between 10 and 12 this morning.

We understand that, at 2.30 this afternoon, a delegation of the foreign residents in Manchuria, Mr. Thos. Sammons, Chairman of the Committee, will wait upon Lt.-Col. Yokura to make a presentation in the form of a memorial of personal appreciation, with some expensive token of warm friendship.

New Year's Dance given under the able auspices of the Winter Amusements Committee came off a grand success at the Assembly Hall, on the evening of the 28th ult. The Japanese Marine Band played excellent selections to the appreciative company all through the evening. Newchwang society turned out in a body in the harmonious splendor of beauty and chivalry. The more conspicuous among the good number who came in fancy dress were noticed Mrs. Bandinel in Japanese costume, Miss Bandinel as Night, Mrs. Ross Thomson as Vivendier, Miss Webster as Lady of the 17th. Century, Dr. Daly and Mr. Bauer as Old Time Gentlemen, Capt. Fawcett as Stockman, Mr. Moore as Venetian Gondolier, Mr. C. G. Bush as Mad Hatter in Alice in Wonderland, Dr. Phillips as Trapper, Mr. Hardy as Chinese Actor, Messrs. Stewart and Edgar as Jockeys, Mr. Waddilove as Cowboy, Mr. Wese as Sailor, and Mr. Samuelsen as Emin Pasha.

The hall was decorated with mistletoe and fir in streamers and flags. The light through the pink shades shewed all fantastic costumes to advantage. The supper room was artistically hung with Japanese lanterns and the small tables were dotted around with fairy lights, giving an enchanting effect to the whole scene of multiguised gaiety. In fact, the Committee may well congratulate themselves on the evening scoring a success eclipsing all previous social gatherings held yet within the walls of the Assembly Hall.

The Children's Christmas Party given by Lt.-Col. Yokura on the evening of the 30th. ult., turned out no less successful an effair. At 3 p.m., amidst the lively air struck up by the Marine Band, young Newchwang flocked in the commodious drawing-room, transforming it for the time into a happy home of cosmopolitan character. The merry little fairies sang and danced round to the piano played by Mrs. Bandinel for about an hour, till, at the martial tune of "March," they, escorted by the lady chaperons, took possession of the sumptuous refreshment hall by storm, with the gallant host leading at the head of the column. Then, they filed into the treasure-room of good old Santa Claus who, muffled up in heavy fur garments and snow boots, beckoned the gleeful party with eyes with beaming munificence, (for no other features of his were revealed to view for his well-concealed identification except his unusual height) to the tall Christmas tree, the branches of which bent low with the rich gifts they bore. Mrs. Sammons, Mrs. Bandinel, Mrs. Dunn, Lt.-Col. Yokura, and Mr. Kurosawa actively assisted the benevolent fairy in dispensing presents to each of the young folks, their lady chaperons, and gentlemen seniors, the last mentioned party having in the meantime repaired from the refreshment hall. The children were each offered a souvenir Japanese lantern to light their homeward way, when the gathering broke up at little after 6.

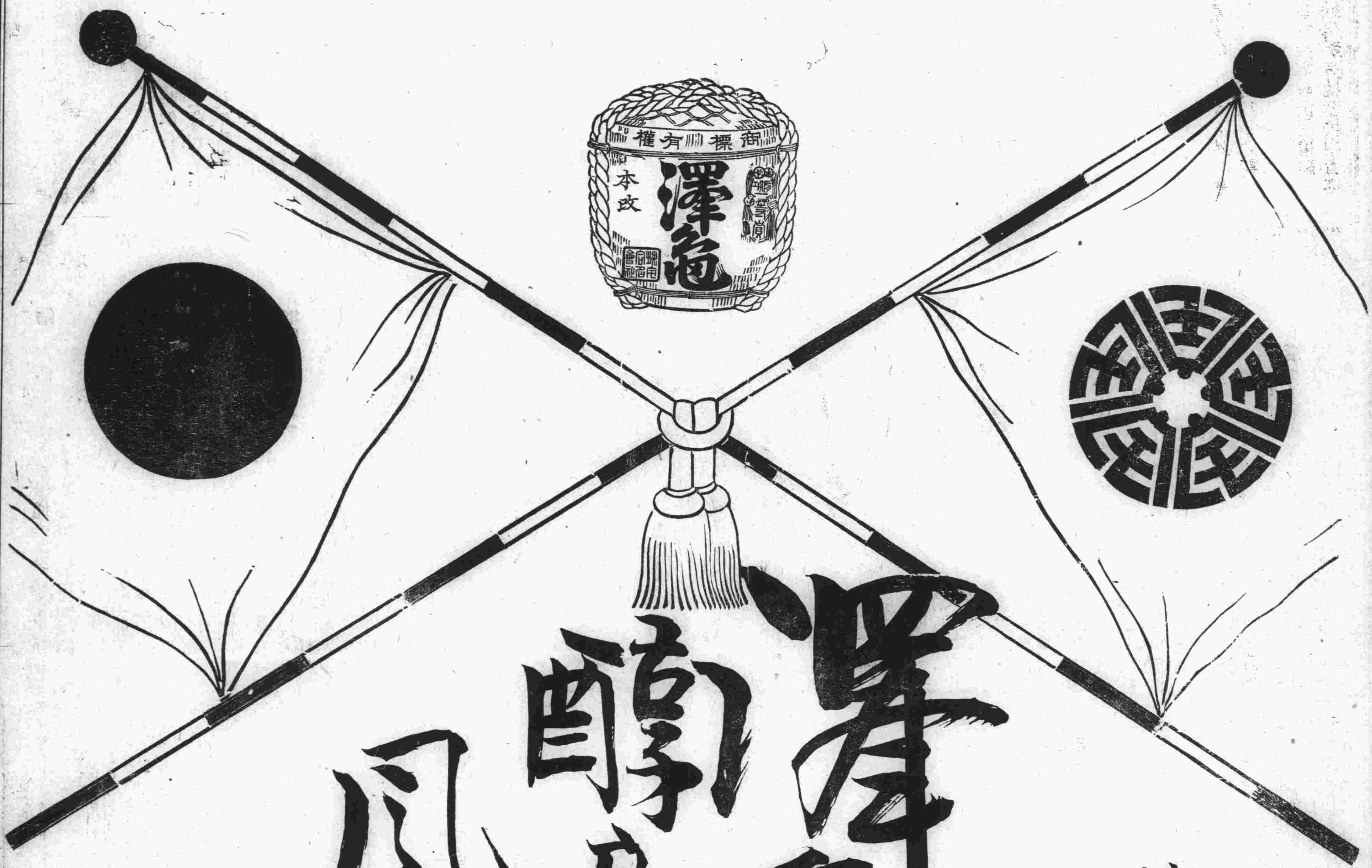
Mrs. Sammons, Mrs. Bandinel, and Mr. Dunn which gentleman was later identified as the good old Santa Claus deserve every credit for the promotion of the successful party.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XVIII).

Korea, in the last stage of decay, had been more helpless against China's aggression than was the imbecile China herself against that of Cossack and his accomplices 10 years later. As Cossack's uncontested power overawed the two continents with mysterious horrors, previous to the late war, so had China's unmeasured strength inspired the indefinable terror of the unknown in the Far East 10 years before. Japan had foreseen the favourable progress of the Japan-China War on the eve of its outbreak, not a whit more than she could foretell that of the Japan-Russia War at the moment of its declaration.

It does not require the faith of a brave man to embark into an enterprise which, by moral certainty, involves little risk. But it takes an energy, stronger than bravery, nobler than courage, rarer and higher than wisdom itself, among the gifts of the soul, to plunge into the unexplored abyss believed to be alive with the terrors of the unknown. It is faith. The laurel of conquest that has made Columbus immortal should wreathe also Japan's brow. And double garlands she should wear. One for each of the two wars. The garlands ought to be of far greater beauty. For, the motive was nobler and the mortal conquest grander. The riches of India prompted Columbus, whose ambition, to say the least, smacked too much of filthy lucre. Then he had nothing but his own life to risk at the worst. No life of a nation was at stake. Much less that of two countries—Korea and Japan in the case of the first war, as Korea, the key of the latter's independence falling into China's hands, Japan's fate was bound to be closed. 60,000,000 souls and their children's children were to be enslaved or liberated. What was one seaman's life to the destiny of the two Continents—Asia first and Europe eventually, as such was the heavy wager in the second war? Were not 460,000,000 souls directly and the whole population of the Eastern Hemisphere in the course of another century to be either doomed or else reclaimed? In both cases, it was the monstrosity of the stake at issue, not hopes of commercial gain, that gave Japan the momentum to make a plunge forward.

恭賀新禧



澤亀は醇良にして風味頗る高尚なり

釀造發賣元
大阪府堺市九間町
宅倉合名會社

「第一の酒保用品
食料雑貨
菓子洋酒和
大卸賣
小賣

営口元神廟街
支店

爲替相場（十二月廿七日）

日本向 軍票百圓に付金九十圓
上海は 百圓に付六十七兩四錢五分
天津向 百圓に付一百〇八圓
芝罘は 天津と同直段

日本品最近物價表 加藤洋行調査

樽物類
菊正宗 三斗九升入 銀二十圓
麒麟正宗 四斗四升入 同十七圓
菊正宗 瓶詰四打 同十五圓

鑵詰
ラッキョ 四打入 同十三圓
辛子漬 五打 同十四圓五十錢
フキ 四打 同九圓五十錢
榮螺 全 同八圓
全 同十四圓

鷲ミルク 全 同十八圓 加藤洋行
寶來菓子類 銀二十六圓
滋養豆 百斤入 同二十五圓
酒茶樂豆 全 百三十斤入 同二十七圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
半ケ年前金 四弗八十仙
一ケ年前金 銀九弗六十仙